

ささえあい
かんじるぬくもり
わがまちさかわ



第3次佐川町地域福祉アクションプラン

【2018（平成30）年度～2023（平成35）年度】

ごあいさつ



佐川町では1年間に100名程度の人口が減少する中、少子化と高齢化も確実に進行しており、農林業や社会福祉分野、また地域の様々な活動においても担い手が不足するなど、今後も生活環境は厳しさを増すことが予測されております。

これらの変化に柔軟に対応し、しなやかで強い町づくりを行っていくために、住民の皆様と行政が一緒になって同じ方向に向かって町づくりを進めるための羅針盤として、「チームさかわ まじめに、おもしろく。」をビジョンとする第5次佐川町総合計画を平成28年4月に作成いたしました。

そして地域福祉においては、第1次計画、第2次計画を推進してきたなかで、住民1人ひとりが“自分ごと”として地域課題に取り組みはじめ、活動の輪が広がりました。第2次計画からは、佐川・斗賀野・尾川・黒岩・加茂の5地区が計画の推進主体となり、地区ごとに集落活動センターやあったかふれあいセンター等ができ、各地区の特性を生かした地域づくりがますます活発になってきています。

また、本計画改定のプロセスを通して、住民の皆様が様々な活動を頑張っている背景に“子どもが宝”との思いがあり、“子ども達が誇れるふるさとになるように”“子ども達の世代が大人になった時に安心して生活していける町であるように”という強い思いがあることを改めて感じました。

地域生活課題に対する取り組みは、未知なる課題への挑戦でもありますが、大人達が課題に向き合い、まじめにおもしろく、楽しみながら挑戦し続ける姿は、子ども達の心にしっかりと刻まれるのではないのでしょうか。そして、子ども達が大人になった時に“自分ごと”として地域の課題をとらえ、人とのつながりや支え合いを大切に、しなやかに生き抜くための強く優しい心を育むのではないのでしょうか。

地域福祉の活動が実を結ぶには時間を要しますが、ひとつひとつの活動の積み重ねが人をつくり地域をつくり、それが世代を超えて引き継がれ、誰もがイキイキと輝き、笑顔があふれる幸せな町となります。基本理念である「ささえあい かんじるぬくもり わがまちさかわ」を達成するために、住民の皆様と行政が一体となり、着実に取り組みを進めていくことが大切になります。今後とも一層のご理解、ご協力をお願い致します。

最後になりましたが、本計画策定にあたり、関わっていただきました策定委員や5地区毎のみなで福祉のまちづくり委員会地区部会の皆様をはじめ、アンケート調査、座談会などで貴重なご意見をいただきました多くの住民の皆様にご心から感謝申し上げます、私からのご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

佐川町長 堀見 和道

ごあいさつ



平成20年に第1次計画が策定された佐川町地域福祉計画・佐川町地域福祉活動計画（第3次からの名称は地域福祉アクションプラン）は、この計画で第3次となりました。振り返ってみると、第1次計画では、座談会やワークショップなど慣れない作業を住民の皆様と一緒に実施し、佐川町の課題をいかに考え取り組んでいくか地区毎の部会立ち上げと同時に活動のきっかけを手探りで探し始めたものでした。

各地区とも地域性を活かし、また多くの方が関わってもらえるイベントや自主防災組織づくりなどの取り組みからはじまり、継続・充実を図りながら策定した第2次計画では、5地区のビジョン・活動目標なども立て、更に活動を広げ深化させるための住民活動拠点を5地区に整備するとして計画が策定されました。

第2次計画でも、それぞれの地域団体が情報交換や連携する中で切磋琢磨し、また行政への熱心な働きかけにより理解を得られ、地域の明るい希望とも言えるあったかふれあいセンターや集落活動センターなどの住民活動拠点が整備されてきました。佐川地区につきましては集落活動センターの整備がされませんでしたでしたが、社会福祉協議会に寄せられた遺贈金で住民活動拠点を整備することができました。

住民活動拠点が整備されるに伴い、様々な住民活動が立ち上がり、また従来から継続されている活動も勢いを増し、今佐川町は県内外からの視察も頻繁にくる住民活動先進地といっても過言ではありません。

これから、南海トラフ災害対策や少子高齢化、人間関係の希薄化、社会保障制度の脆弱化など以前よりの課題も深刻さが更に深まるとされ、一層地域のつながりや支えあいが求められる時代となってきました。この第3次地域福祉アクションプランがそれぞれの地区で実践されることにより、人々の様々なつながりが共感と安心の基盤となり、一人ひとりに居場所と出番がつくられ、お互い様とありがとうの輪がどんどん広がる、そんな町になることを祈念してやみません。

社会福祉協議会も今まで様々な取り組みで住民の皆様と共に歩んできました。佐川町の皆様の前向きで楽しみながら地域のために取り組む姿に、いつも感動をいただき、また大いなる感謝と希望を持っています。今後も佐川町に住んでよかったと実感できるよう、また子どもたちには地域の温かさと誇りを持ってもらえる地域づくりを、地域・行政・社会福祉協議会でスクラムを組んで頑張りましょう。

このアクションプランが計画に携わった多くの住民の皆様の願い、思いがひとつでも多く具現化されるように祈念し、巻頭のごあいさつとさせていただきます。

社会福祉法人 佐川町社会福祉協議会

会 長 秋 沢 徳 久

目次

第1章	計画の概要	1
	1. 計画策定の背景	1
	2. 計画の位置づけ	2
	3. 計画の期間	3
	4. 計画策定の体制	3
	5. 計画策定の経過	4
第2章	佐川町の現状	6
	1. 人口構成・世帯数の状況	6
	2. 高齢者の状況	9
	3. 障害者等の状況	19
	4. 子どもの状況	22
	5. その他	24
第3章	地域福祉アクションプラン（全体計画）	28
	1. 計画体系図	28
	2. 重点目標・活動目標と具体的な取り組み	29
	生涯笑顔で暮らせるまち	29
	みんなでつくる自然豊かな安心安全のまち	32
	みんなが主役 地域おこしで元気なまち	35
	3. みんなの心得	38
第4章	各地区計画	39
	1. 佐川地区計画	39
	2. 斗賀野地区計画	41
	3. 尾川地区計画	43
	4. 黒岩地区計画	45
	5. 加茂地区計画	47
第5章	計画推進体制	49
	1. 推進体制	
	2. みんなで福祉のまちづくり委員会	
	3. みんなで福祉のまちづくり地区部会	
	4. 専門部会	
資料編		51
	1. 平成29年度地域お世話役さん対象アンケート調査結果	51
	2. 改正社会福祉法（平成30年4月施行）	70
	3. 佐川町地域福祉アクションプラン策定委員会設置要綱	72
	4. 策定委員会・作業部会・アドバイザー・事務局名簿	73
	5. 用語集	75
	6. 佐川町第5次総合計画 45の施策	77

第1章 計画の概要

1. 計画策定の背景

「地域福祉」とは、誰もがその人らしく住み慣れた地域で安心して暮らせるように、地域住民やボランティア、民生委員・児童委員、NPO、社会福祉協議会、社会福祉団体などと行政が協力して、地域課題の解決に向けて取り組んでいくことです。

この計画は、社会福祉法第107条に基づき、地域福祉の推進を目的として策定します。

【当町における計画策定の経過】

準備期間 平成17年～平成19年：地域で座談会実施5地区×2回、作業部会の開催

第1次計画 平成20年～平成24年：住民組織づくり

第2次計画 平成25年～平成29年：住民活動拠点づくり 5地区毎の地区計画作成

第2次計画が始まった平成25年以降、国では、成年後見制度利用促進法の施行、災害対策基本法、生活困窮者自立支援法、子どもの貧困対策推進法、障害者総合支援法、母子保健法、児童福祉法、地域包括ケアシステムを構築するための介護保険制度の大幅な改正が行われ、福祉関連事業は大きな変革期を迎えています。平成28年7月には厚生労働省に「我が事・丸ごと」地域共生社会実現本部が設置され、「地域共生社会」の実現が地域福祉推進の土台部分となることが位置づけられ、平成30年4月に改正社会福祉法が施行される運びとなりました。

背景にある社会的な問題としては、諸外国に例をみないスピードでの少子高齢化の進行があります。「団塊の世代」が後期高齢者となる2025（平成37）年には、およそ5.5人にひとりが後期高齢者となり、認知症の高齢者、一人暮らし高齢者、高齢者夫婦のみの世帯も増加すると予測されています。高知県においては、全国平均に比べて人口減少は15年、高齢化は10年早く進行しており、佐川町においてはさらに進行が早い状態となっています。このような急激な社会情勢の変化に伴い、地縁・血縁でつながっていた地域の支え合いの力は急速に弱体化しました。また少子社会においては、子どもたちは豊かな遊びの経験や多様な人間関係の中で生きる力を育む機会が激減しています。

本町の地域福祉計画・地域福祉活動計画の推進においては、第1次計画では「住民組織づくり」、第2次計画では「住民活動拠点づくり」を目指し段階的に取り組んできた結果、5地区毎の特性を活かした住民活動が活発に行われるようになりました。これは、基本理念である「ささえあいかんじるぬくもり わがまちさかわ」の実現に向け、様々な社会情勢の変化にしなやかに向き合っていくための地域力の土壌ができた段階であると言えます。第3次計画においては「支え合いの仕組みづくり」を目指し、“地域の支え合い・助け合いの維持・再生”を推進し、住民1人ひとりが地域づくりの主役となり生涯笑顔で安心して暮らすことができる町づくりに取り組みます。

また、行政・社会福祉協議会においては、社会情勢の変化に伴いより複合的になってきている地域生活課題を解決していくため、従来の縦割りの事業や制度をこえて専門職同士も横のつながりを持ち、相談を丸ごと受けとめる体制づくりをすすめ、地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制を構築していく必要があります。

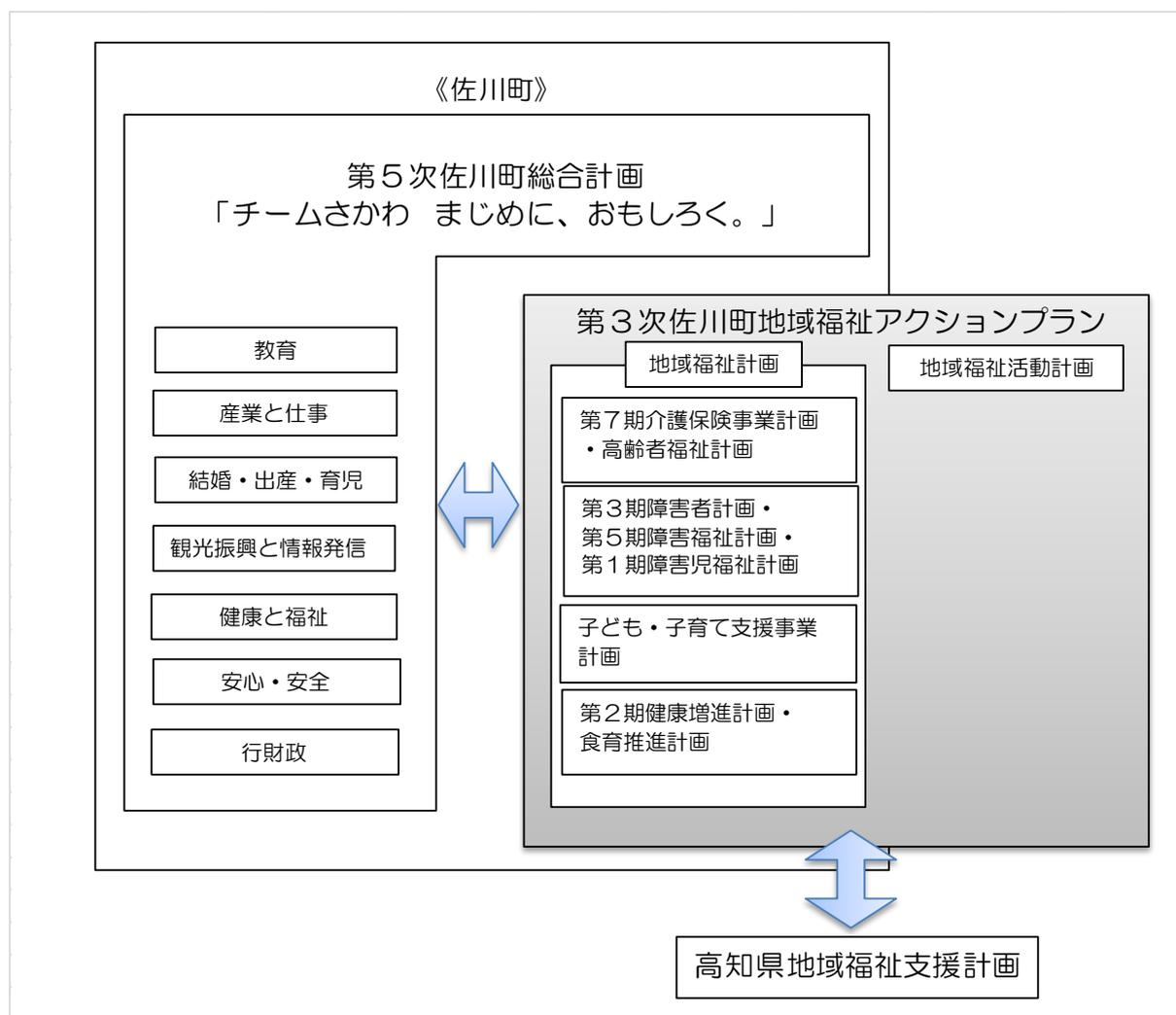
第1章 計画の概要

2. 計画の位置づけ

本計画は、主として「住民主体の活動」に焦点をあて、行政等の関係機関とのパートナーシップのもとに住民が地域で行う取り組みの方向性や基本的な考え方を示しています。行政計画である地域福祉計画と社会福祉協議会が住民とつくる地域福祉活動計画を一体的に策定しており、第3次計画より、高知県地域福祉支援計画に基づき“地域福祉アクションプラン”という名称を用いることとしました。

また、介護保険事業計画・高齢者福祉計画、障害者計画・障害福祉計画・障害児福祉計画、子ども・子育て支援事業計画などの各福祉計画の上位計画として位置づけ、地域福祉の総合的・計画的な推進を目指します。

【他の計画との関連図】



【第5次佐川町総合計画】 みんなでつくる総合計画の全体像



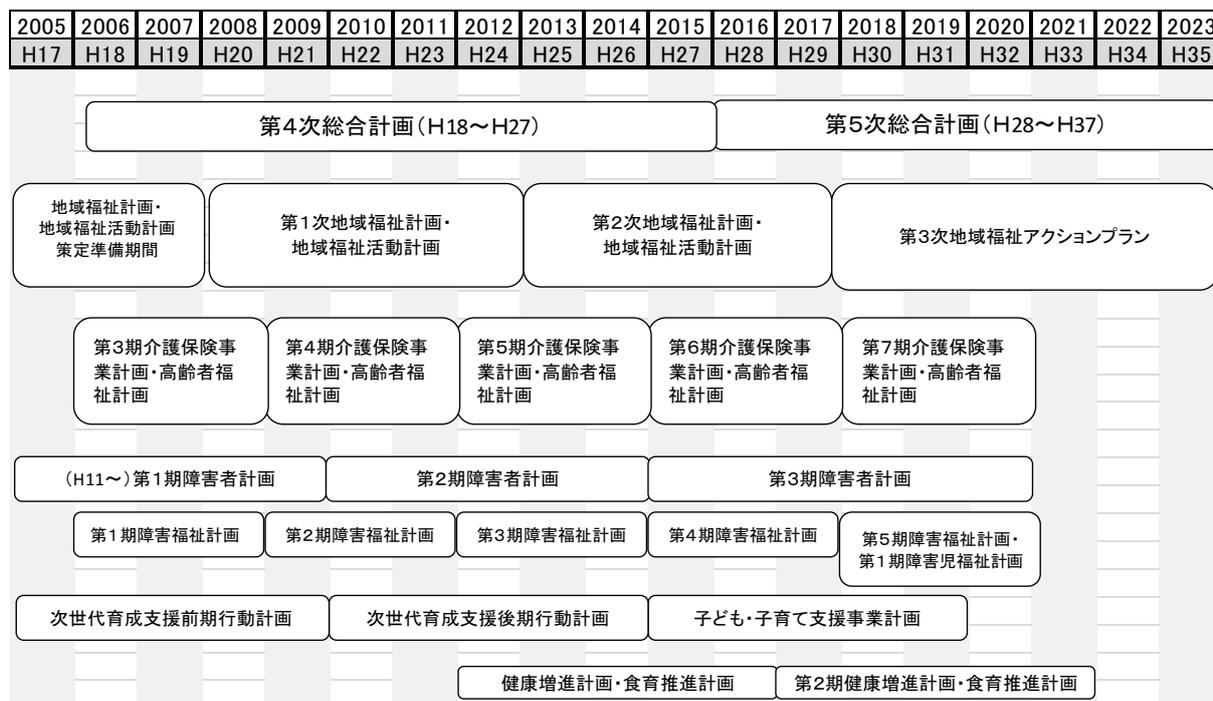
第1章 計画の概要

3. 計画の期間

第1次計画および第2次計画については、5ヶ年の計画期間として策定しました。

第3次計画は、他の各福祉計画等と整合性をとることでより効果的に推進するため、2018(平成30)年度から2023(平成35)年度までの6ヶ年計画として策定します。地域のニーズや社会情勢の変化に対応し、着実に取り組みをすすめていくため、年度毎に計画の進捗状況確認を行います。また、計画の中間評価を行い、必要に応じて計画の見直しをはかります。

【計画の期間】



4. 計画策定の体制

第3次計画策定にあたっては、第1次計画より推進体制の核となっている「みんなで福祉のまちづくり委員会」のメンバーを中心として、策定委員会を設置し、アドバイザーを迎え、町健康福祉課と町社会福祉協議会とで事務局体制を組みました。

策定委員会・・・各地区の自治会長会会長や、地域活動を行う団体の代表者、ボランティア団体代表者が、計画策定にあたっての軌道修正や、承認を行います。また策定後の計画推進のために重要なメンバーとして構成しています。

アドバイザー・・・高知県立大学社会福祉学部の田中教授をはじめ、高知県中央西福祉保健所地域支援室、高知県社会福祉協議会地域福祉課などにアドバイザーとしてお越しいただきました。

事務局体制・・・地域福祉計画及び地域福祉活動計画の同時策定のため、佐川町健康福祉課及び佐川町社会福祉協議会において合同事務局を設置しました。

第1章 計画の概要

5. 計画策定の経過

地域お世話役さん対象アンケート

“地域のお世話役さん”の位置づけにある方に、第2次計画策定時と同様の内容で、地域の状況等について何うアンケートを実施。

◆調査対象：地域のお世話役さん

自治会長、自主防災組織代表者、民生児童委員、福祉委員、ふれあいサロン協力員、百歳体操お世話役、各地区の地域づくり団体・協議会関係者、社会福祉協議会役員

◆調査期間：平成29年5月29日～平成29年6月9日

◆調査方法：郵送による配布・回収

◆回収率：74.6%（344名）

合同会 7月7日（金） 出席60名

- ・講演「第3次佐川町地域福祉アクションプランについて」
講師 高知県立大学社会福祉学部教授 田中きよむ氏
- ・第2次計画の評価（各地区毎にグループワーク）
- ・計画策定スケジュールの確認



講演会と各地区の取り組み発表 “すてき発見のススメ” 9月14日（木） 参加者111名

地域お世話役さんアンケートの結果より、“人と人とのつながり・支え合い”の重要性がみえてきたことから、“つながり・支え合い活動”の第一人者を講師に迎え、介護保険制度の生活支援体制整備事業担当者とともに、未来を語る座談会に先駆けて講演会を実施しました。

・講演「つながりづくりは支え合う地域づくり」

講師 特定非営利活動法人 全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）
池田 昌弘 理事長

・5地区の取り組み発表



第1章 計画の概要

未来を語る座談会 第1回目

各地区の人口動態・介護保険ニーズ調査結果・お世話役さん対象アンケート結果を報告。各地区のお宝と課題を整理することで現状を再確認し、それをふまえ、今後取り組んでいきたいことの検討をグループワークにて実施。

9月 8日	尾川地区	23名
9月20日	斗賀野地区	21名
9月22日	加茂地区	17名
9月26日	佐川地区	21名
9月28日	黒岩地区	13名



黒岩地区



佐川地区



斗賀野地区

未来を語る座談会 第2回目

1回目座談会の結果をふまえ、各地区計画の目標や文言を加筆修正し、その後、今後6年間で取り組む具体的な活動についてアイデアだしをグループワークにて実施。

10月18日	黒岩地区	15名
10月19日	加茂地区	21名
10月23日	佐川地区	19名
10月25日	斗賀野地区	21名
11月 9日	尾川地区	20名



加茂地区



尾川地区

策定委員会

12月12日	第1回策定委員会
1月17日	第2回策定委員会
2月21日	第3回策定委員会



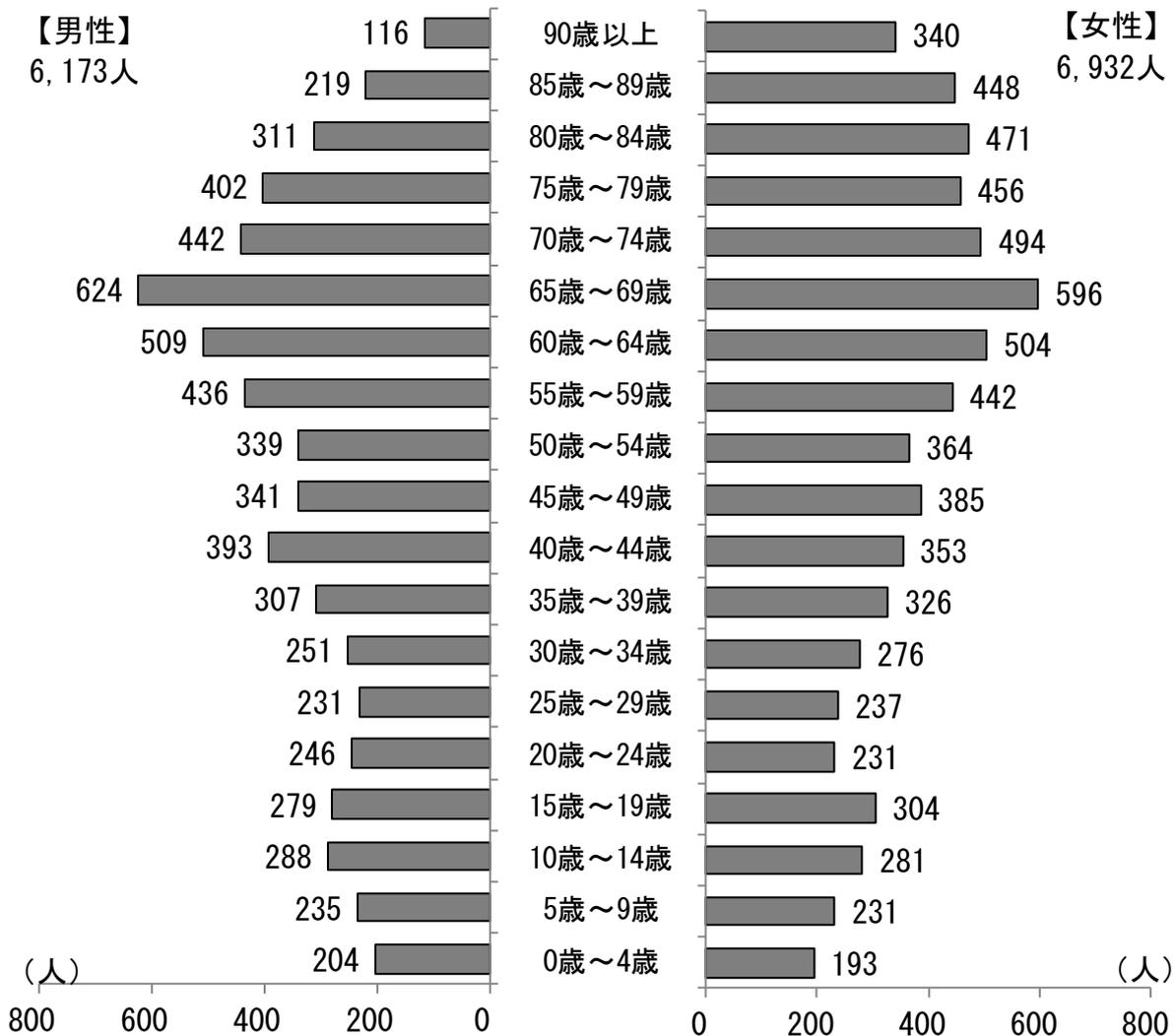
第2章 佐川町の現状

1. 人口構成・世帯数の状況

(1) 人口構成

2017(平成29)年9月末現在、佐川町の人口は、男性6,173人、女性6,932人で合計13,105人となっています。年齢階層別にみると、男女ともに「65～69歳」が最も多くなっています。

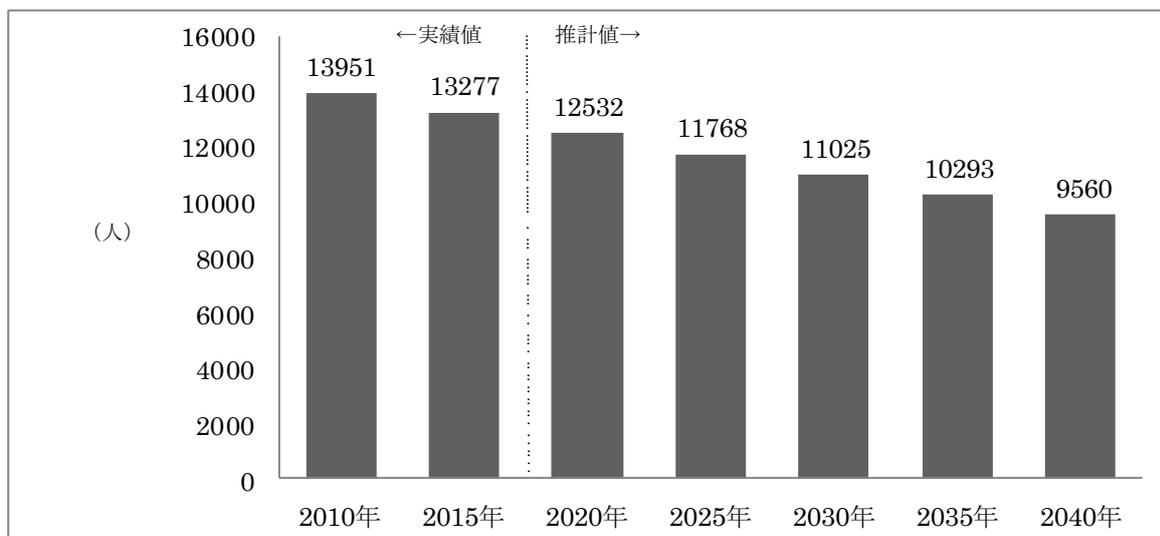
■人口ピラミッド



出典：住民基本台帳 平成29年9月末現在

第2章 佐川町の現状

■総人口の推移【佐川町 2010（平成 22）年から 2040（平成 52）年】



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

■年齢3区分人口割合推移

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
0～14歳	11.6%	11.0%	9.9%	9.4%	9.0%	9.0%	9.1%
15～64歳	55.0%	51.4%	49.5%	48.3%	47.8%	47.4%	46.1%
65歳以上	33.3%	37.6%	40.6%	42.3%	43.2%	43.6%	44.8%
75歳以上	19.6%	21.6%	23.1%	26.7%	29.2%	30.4%	30.6%

※再掲

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

■5地区別データ（第2次計画策定時との比較）

引用：住民基本台帳

〈人口〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2017(平成 29)年 1 月末日	6,909 人	3,312 人	802 人	1,143 人	1,039 人
2013(平成 25)年 1 月末日	7,147 人	3,503 人	920 人	1,267 人	1,043 人

第2章 佐川町の現状

〈年少人口：0歳～14歳〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2017(平成29)年1月末日	812人	352人	59人	93人	117人
2013(平成25)年1月末日	862人	389人	72人	111人	111人

〈生産年齢人口：15歳～64歳〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2017(平成29)年1月末日	3,678人	1,751人	358人	559人	532人
2013(平成25)年1月末日	4,063人	1,960人	456人	637人	594人

〈老年人口：65歳以上〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2017(平成29)年1月末日 (うち、75歳以上人口)	2,419人 (1,376人)	1,209人 (663人)	385人 (234人)	512人 (295人)	390人 (209人)
2013(平成25)年1月末日 (うち、75歳以上人口)	2,249人 (1,306人)	1,154人 (657人)	392人 (255人)	519人 (318人)	338人 (200人)

〈高齢化率：65歳以上人口÷人口〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2017(平成29)年1月末日	35.01%	36.50%	48%	44.79%	37.53%
2013(平成25)年1月末日	31.35%	32.94%	42.60%	40.96%	32.40%

〈後期高齢化率：75歳以上人口÷65歳以上人口〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2017(平成29)年1月末日	56.80%	54.84%	60.8%	57.62%	53.59%
2013(平成25)年1月末日	58.07%	56.93%	65.05%	61.27%	59.17%

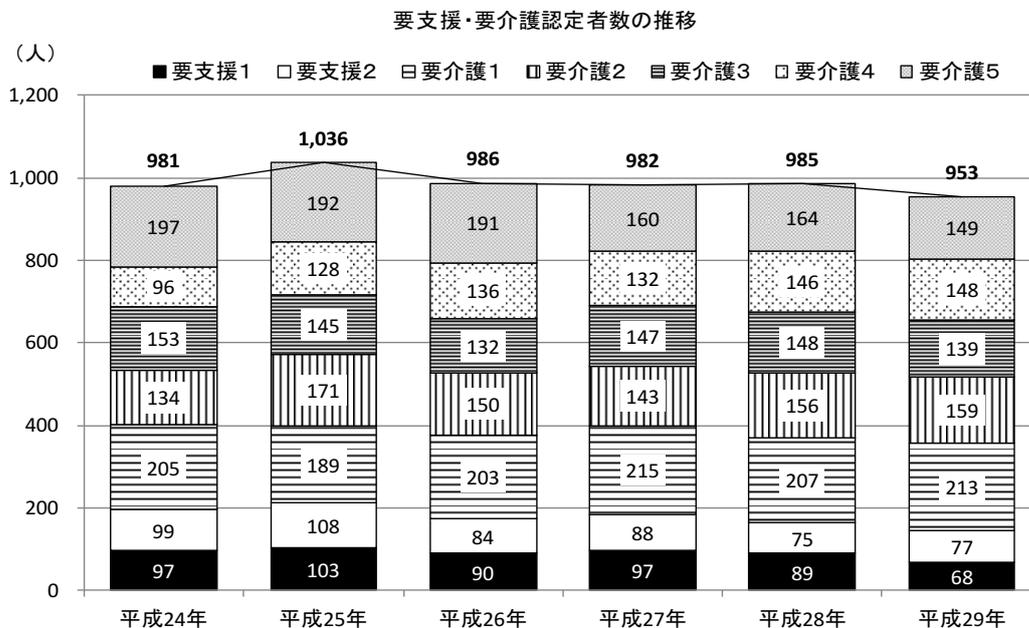
〈出生数〉

	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
2016(平成28)年度	31人	12人	2人	5人	4人
2012(平成24)年度	45人	13人	3人	8人	4人

2. 高齢者の状況

(1) 要支援・要介護認定者数の推移

要支援・要介護認定者数の推移は、2012（平成24）年981人から2017（平成29）年953人となっており、28人減少しています。介護度別に見ると要介護4が増加傾向にあります。



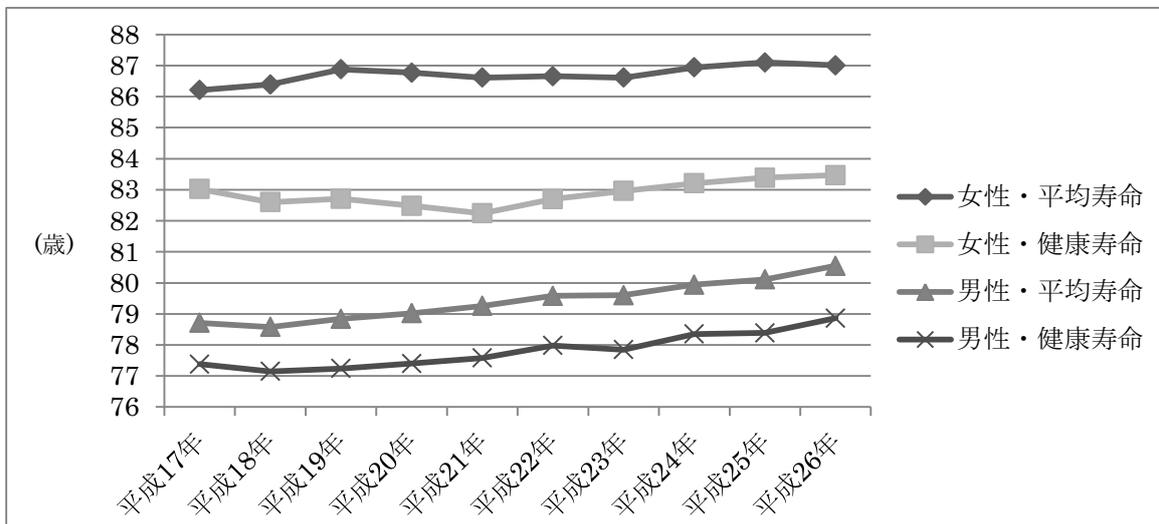
出典：平成24年から平成27年：厚生労働省「介護保険事業状況報告（年報）」

平成28、29年：「介護保険事業状況報告（3月月報）」

第2章 佐川町の現状

(2) 平均寿命と健康寿命

佐川町の平均寿命は、2014（平成26）年時点で男性が80.55歳、女性は87.01歳で、ゆるやかな上昇傾向です。また、佐川町の健康寿命（支援や介護を必要としない期間）は、男性が78.86歳、女性が84.47歳となっており、平均寿命と合わせてみると、男性では支援や介護を必要とする期間が1.69年、女性は2.54年となっています。

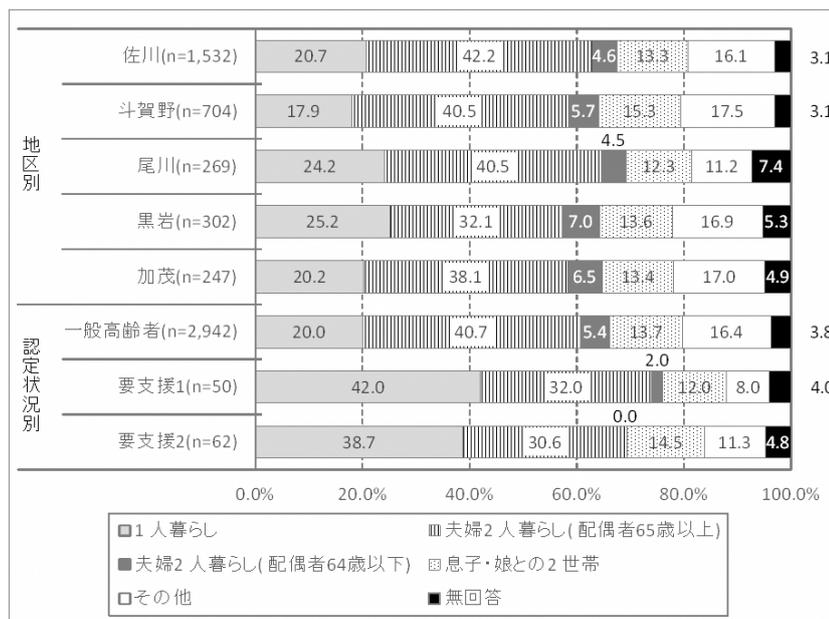


引用：高知県健康づくり支援システム

(3) 家族構成

地区別にみると、「1人暮らし」の方は黒岩で25.2%と最も多く、斗賀野（17.9%）のみ20%未満となっています。また、「夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）」の方は佐川が42.2%と最も多くなっています。

「1人暮らし」の割合を認定状況別にみると、認定（要支援1・2）を受けている「1人暮らし」の方は、一般高齢者の約2倍程度となっています。



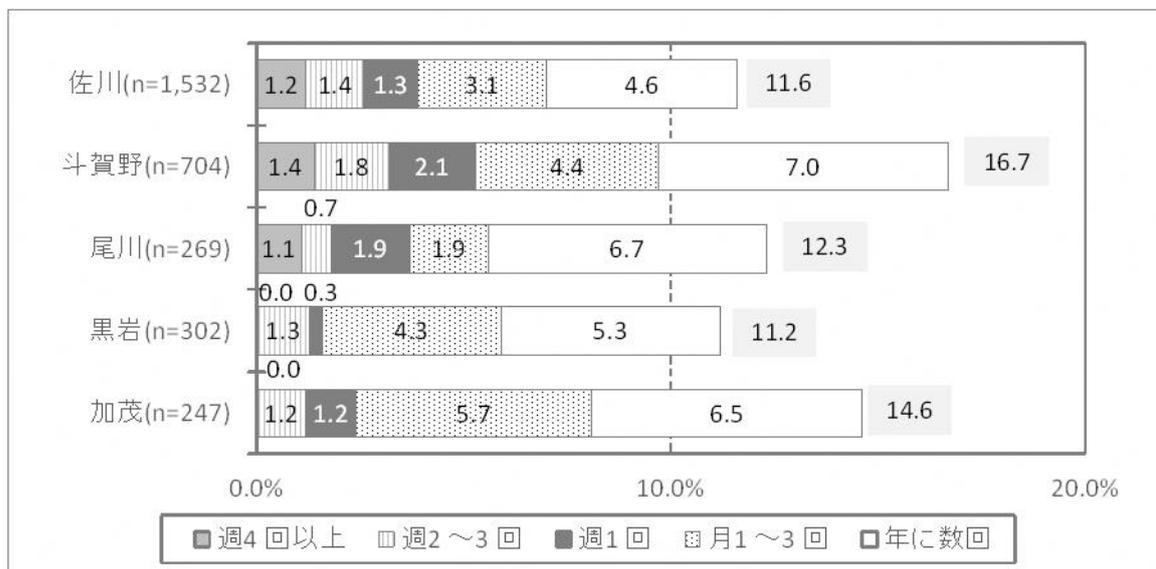
引用：介護保険ニーズ調査結果（2017年度実施）

第2章 佐川町の現状

(3) 地域での活動について

■ ボランティアのグループ

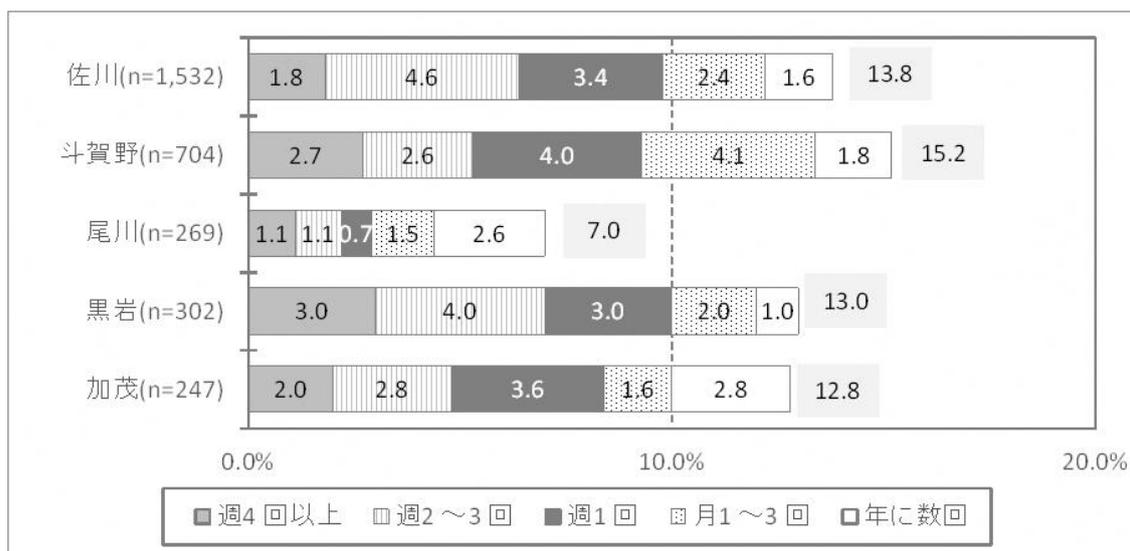
地区別に参加頻度をみると、斗賀野（16.7%）が最も高く、黒岩（11.2%）が最も低くなっています。「年に数回」を除いても、斗賀野（9.7%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（平成29年度実施）

■ スポーツ関係のグループやクラブ

地区別に参加頻度をみると、斗賀野（15.2%）が最も高く、尾川（7.0%）が最も低くなっています。「年に数回」を除いても、斗賀野（13.4%）の参加頻度が最も高くなっています。

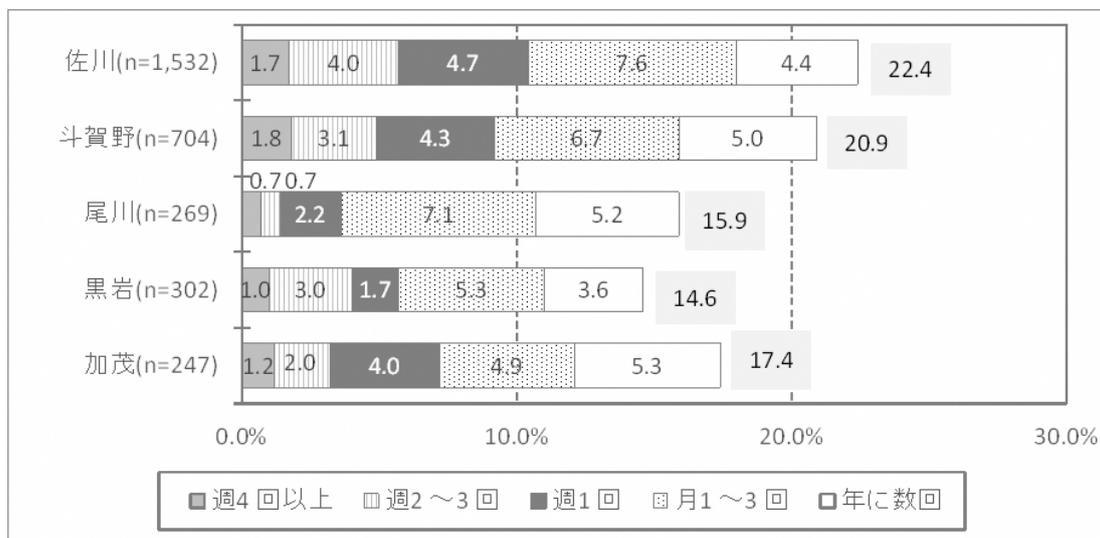


引用：介護保険ニーズ調査結果（平成29年度実施）

第2章 佐川町の現状

■ 趣味関係のグループ

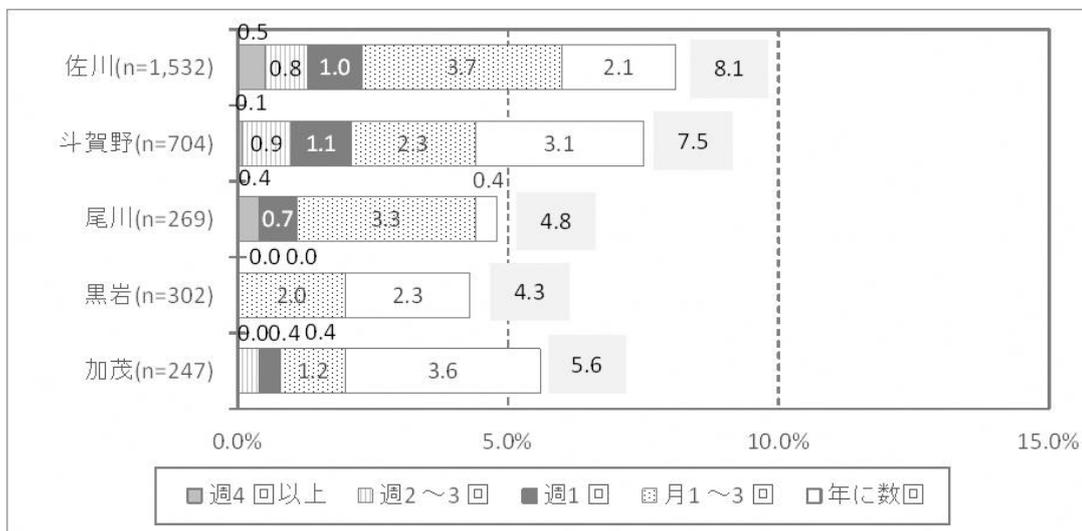
地区別に参加頻度をみると、佐川（22.4%）が最も高く、黒岩（14.6%）が最も低くなっています。「年に数回」を除いても、佐川（18.0%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（平成29年度実施）

■ 学習・教養サークル

地区別に参加頻度をみると、佐川（8.1%）が最も高く、黒岩（4.3%）が最も低くなっています。「年に数回」を除いても、佐川（6.0%）の参加頻度が最も高くなっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（平成29年度実施）

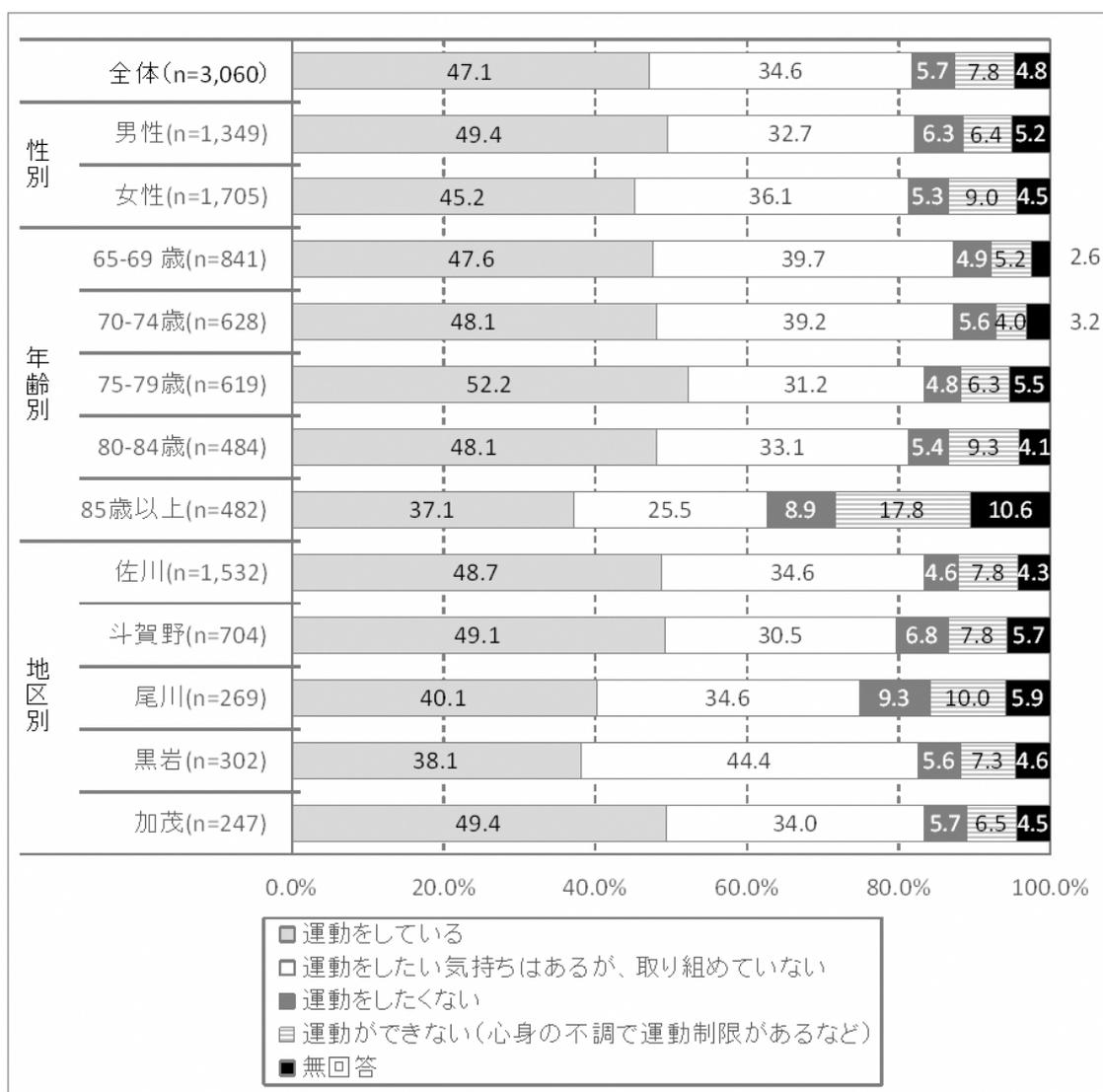
(4) 運動習慣について

■ 運動習慣の有無

運動習慣の有無についてみると、全体では「運動している」(47.1%)と答えた“運動習慣がある方”が最も多くなっていますが、“運動習慣がない方”(「運動している」以外を答えた方)も約半数を占めています。

性別・年齢別でみると、“運動習慣がある方”は女性(45.2%)より男性(49.4%)に多く、75-79歳で52.2%と半数以上を占めています。

地区別でみると、加茂(49.4%)で最も多く、最も少ない黒岩(38.1%)と比較すると、10%以上の差があります。



引用：介護保険ニーズ調査結果（平成29年度実施）

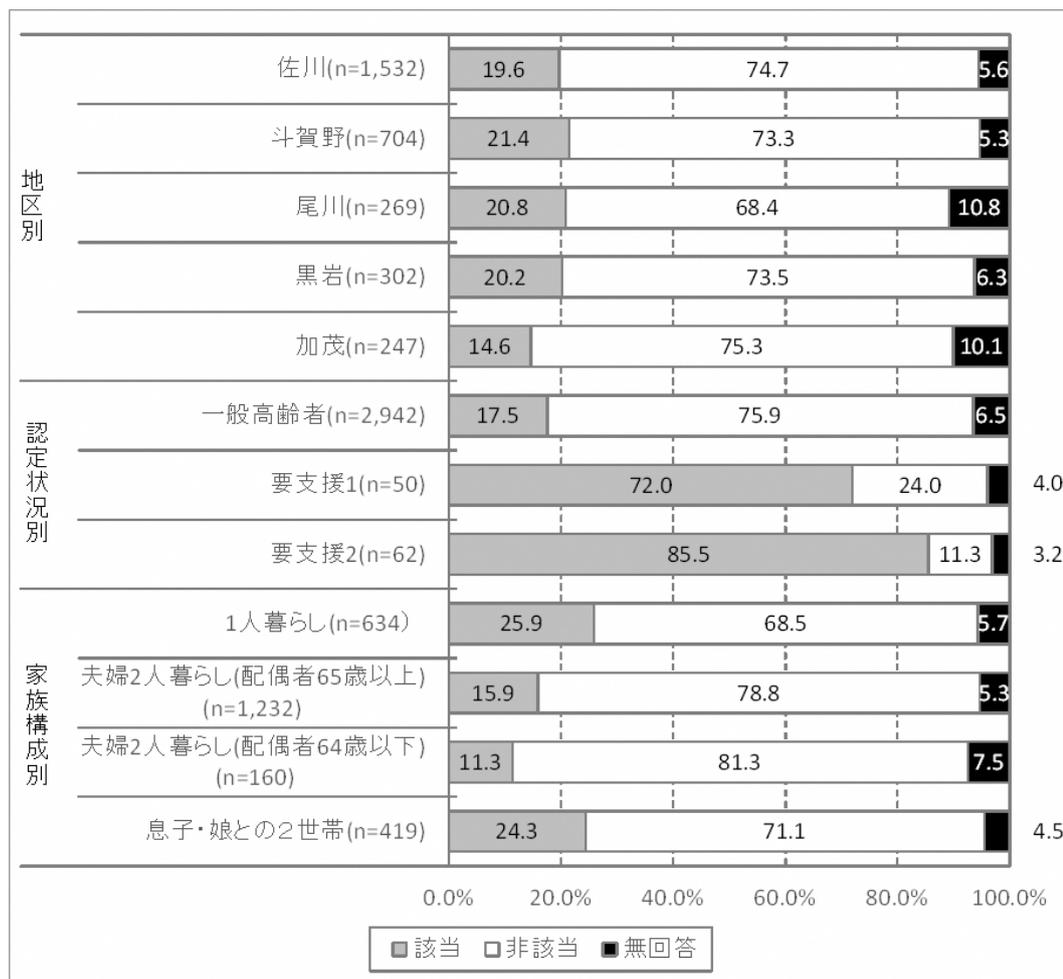
■運動器機能の低下

以下の設問に対して5問中3問以上該当する場合は、運動器機能の低下している高齢者となります。

設問	選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	できない
15分位続けて歩いていますか	できない
過去1年間に転んだ経験がありますか	何度もある／1度ある
転倒に対する不安は大きいですか	とても不安である／ やや不安である

運動器機能が低下している方を地区別にみると、他の地区に比べて、加茂（14.6%）で少なくなっています。認定状況別にみると、介護度が上がるにつれて多くなっており、要支援2では85.5%となっています。

家族構成別にみると、1人暮らしが25.9%と最も高く、次いで息子・娘との2世帯（24.3%）、夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）（15.9%）、夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）（11.3%）の順となっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（平成29年度実施）

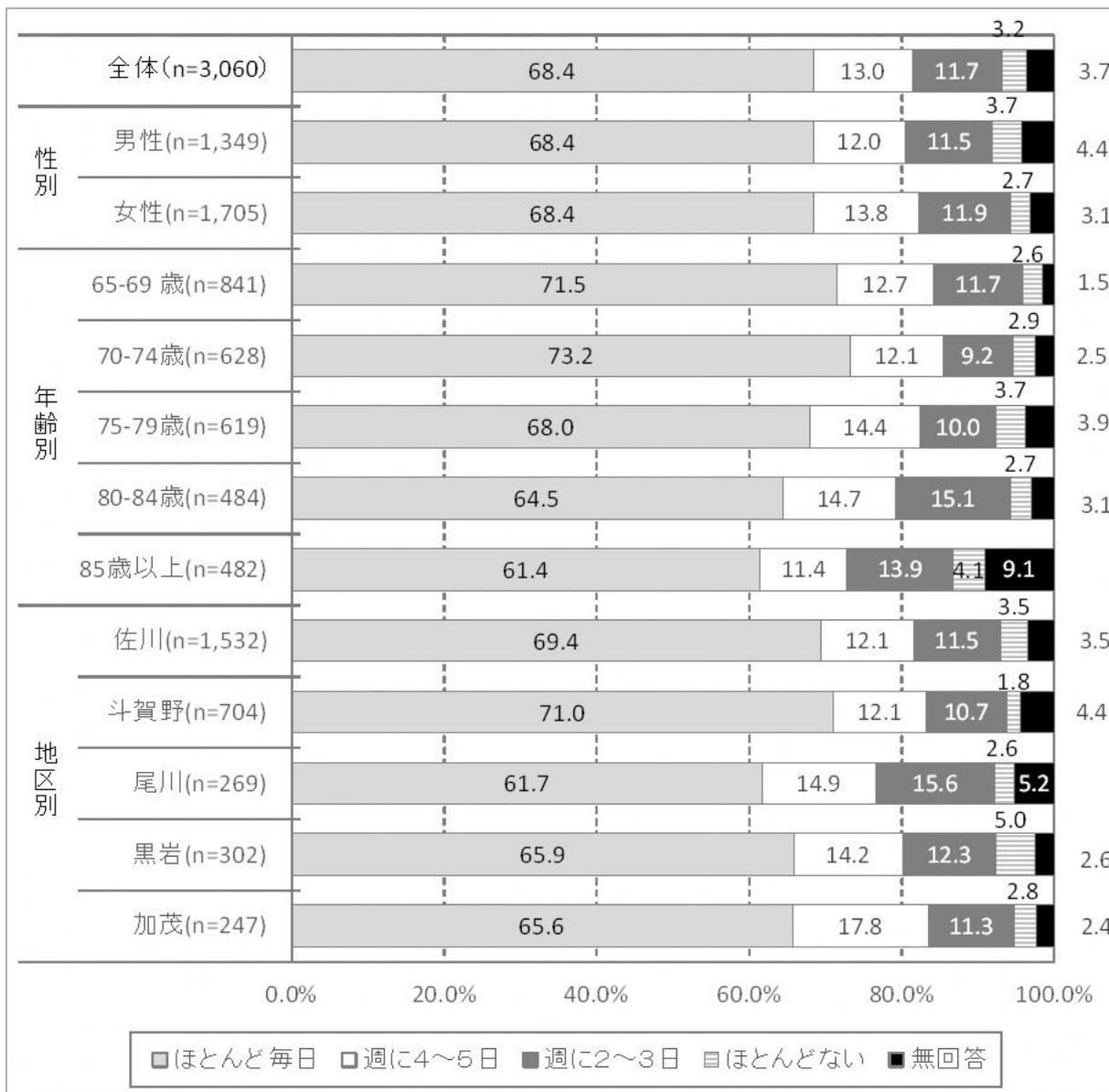
(5) 食事について

■栄養バランス

1日に2回以上主食・主菜・副菜を揃えて食事をしている日が週に何度あるかたずねると、「ほとんど毎日」と答えた方は、全体では68.4%となっており、性別でみても同様の結果となっています。

年齢別にみると、「ほとんど毎日」と答えた方は、年齢が上がるにつれて減少傾向となっており、85歳以上では61.4%となっています。

地区別にみると、「ほとんど毎日」と答えた方は、斗賀野（71.0%）に最も多く、唯一70%以上を占めています。



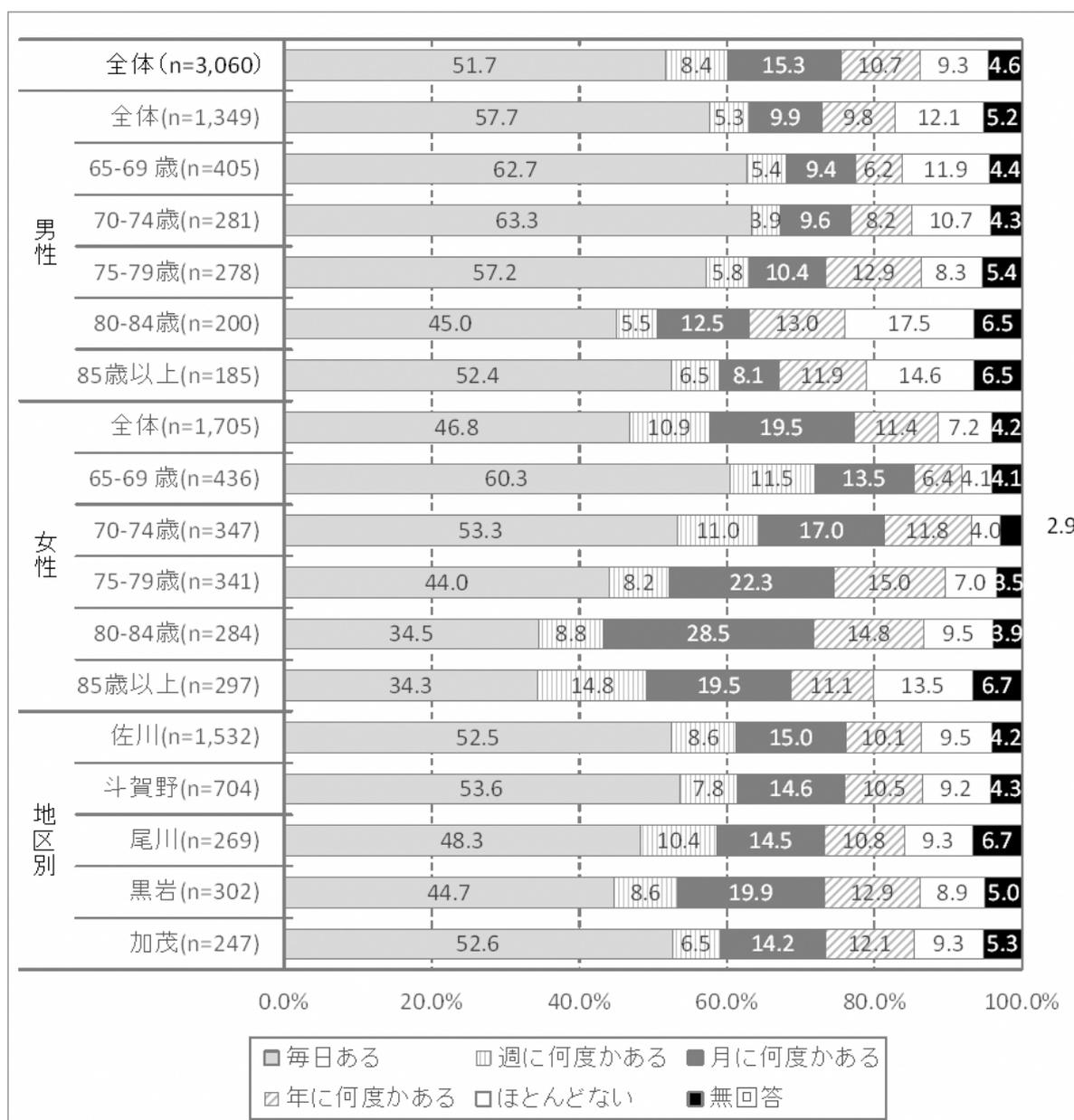
引用：介護保険ニーズ調査結果（平成29年度実施）

■孤食の状況

どなたかと食事をもつにする機会の有無をみると、全体の51.7%は「毎日ある」と答えています。また、「年に何度かある」および「ほとんどない」と答えた“孤食傾向のある方”も20.0%を占めています。

性別・年齢別にみると、“孤食傾向のある方”は男性は80-84歳(30.5%)、女性は85歳以上(24.6%)に最も多くなっています。

“孤食傾向のある方”を地区別にみると、黒岩(21.8%)に最も多く、「月に何度かある」と答えた方も含めると、41.7%となっています。



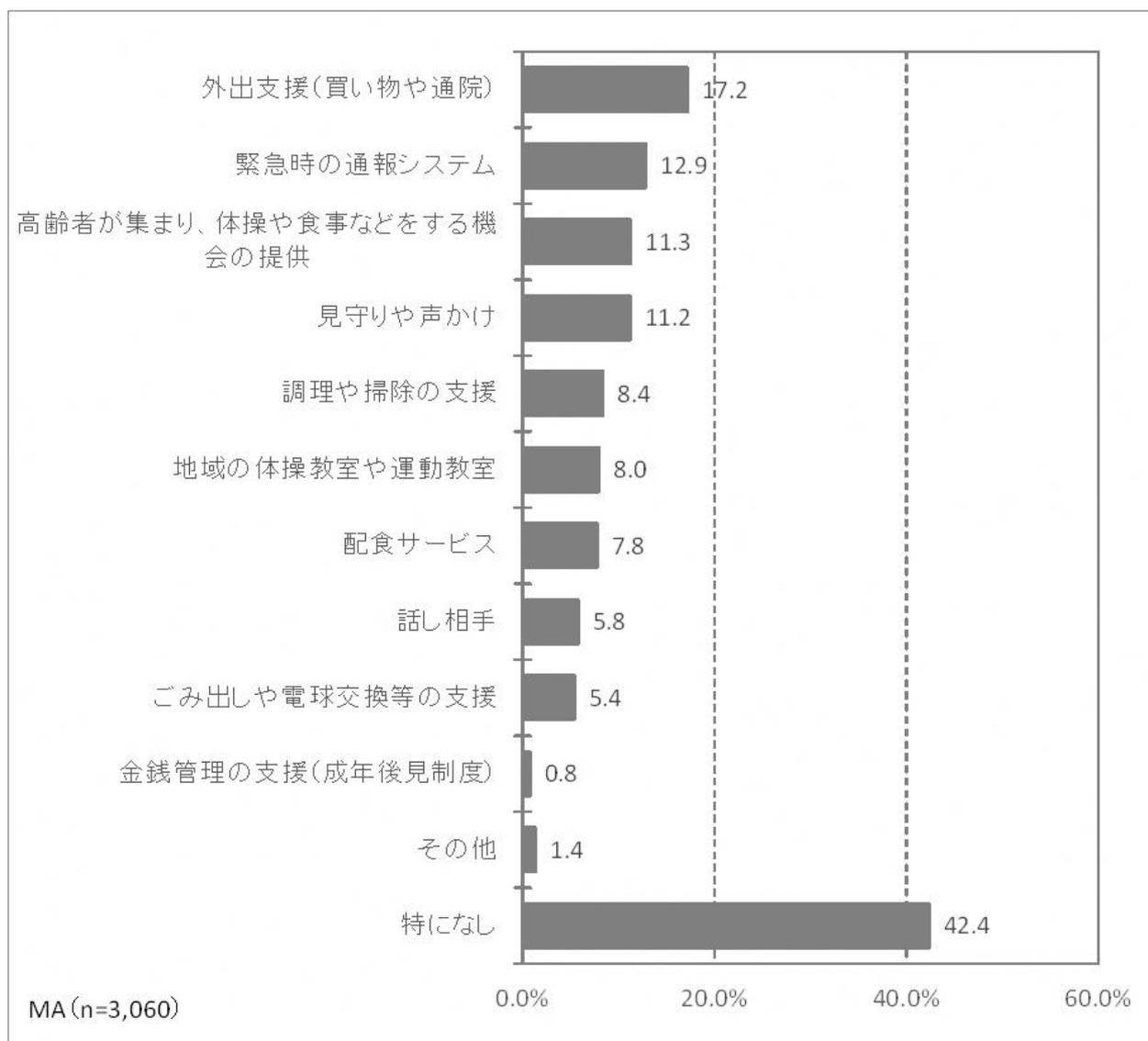
引用：介護保険ニーズ調査結果（平成29年度実施）

第2章 佐川町の現状

(6) 利用したいサービス

今の生活を続ける上で現在もしくは今後利用したいと感じるサービスや取り組みをみると、「外出支援（買い物や通院）」17.2%が最も多く、次いで、「緊急時の通報システム」12.9%、「高齢者が集まり、体操や食事などをする機会の提供」11.3%の順となっています。

「特になし」も、42.4%と高くなっています。

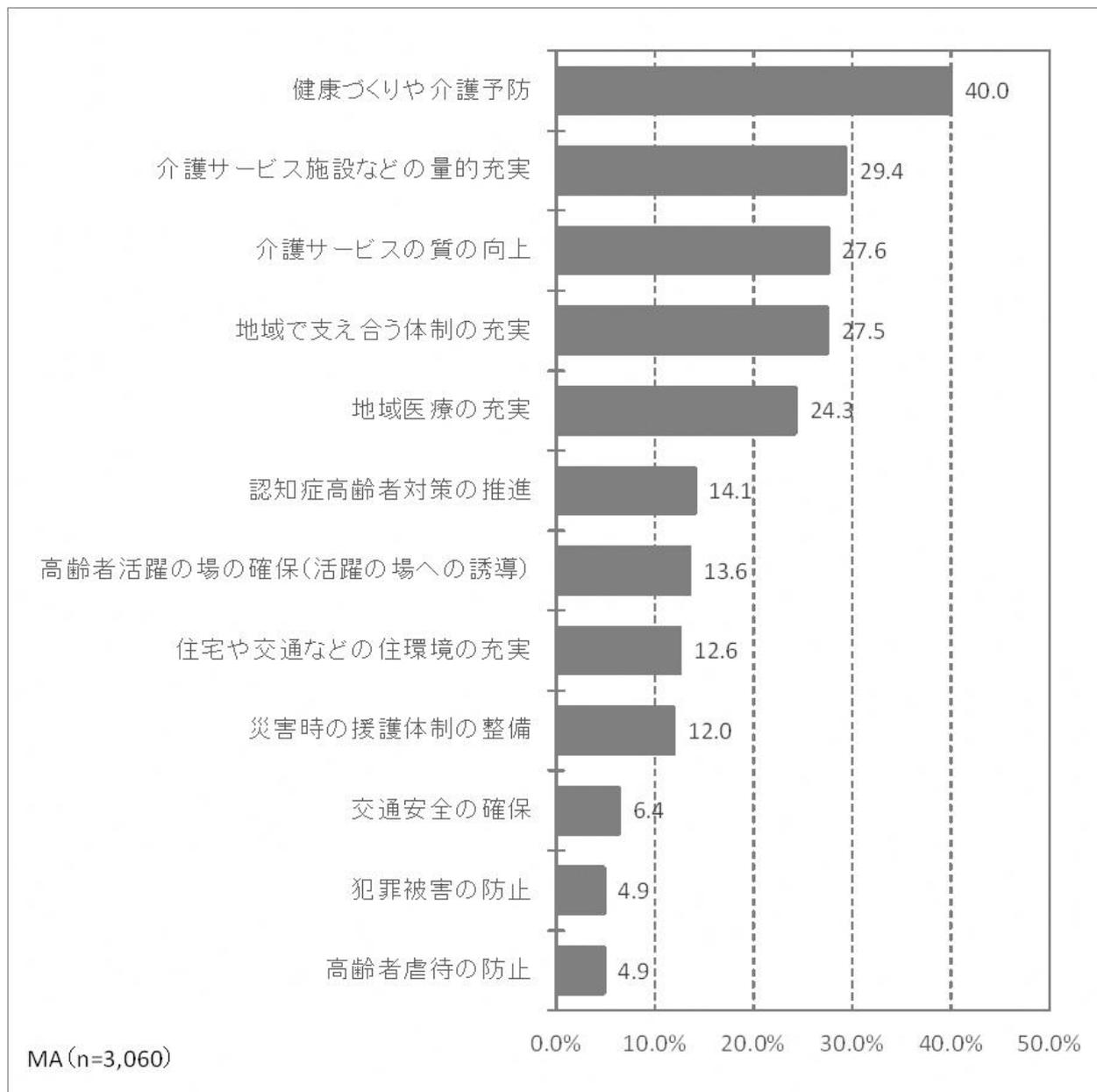


引用：介護保険ニーズ調査結果（平成 29 年度実施）

第2章 佐川町の現状

(7) 今後重要と思う方策

高齢化社会において今後重要と思う方策についてみると、「健康づくりや介護予防」40.0%が最も多く、次いで、「介護サービス施設などの量的充実」29.4%、「介護サービスの質の向上」27.6%の順となっています。



引用：介護保険ニーズ調査結果（平成29年度実施）

3. 障害者等の状況

■身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の保持者数

	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者 保健福祉手帳	合計
所持者数	1,005 人	124 人	95 名	1,224 人

平成29年3月末日現在

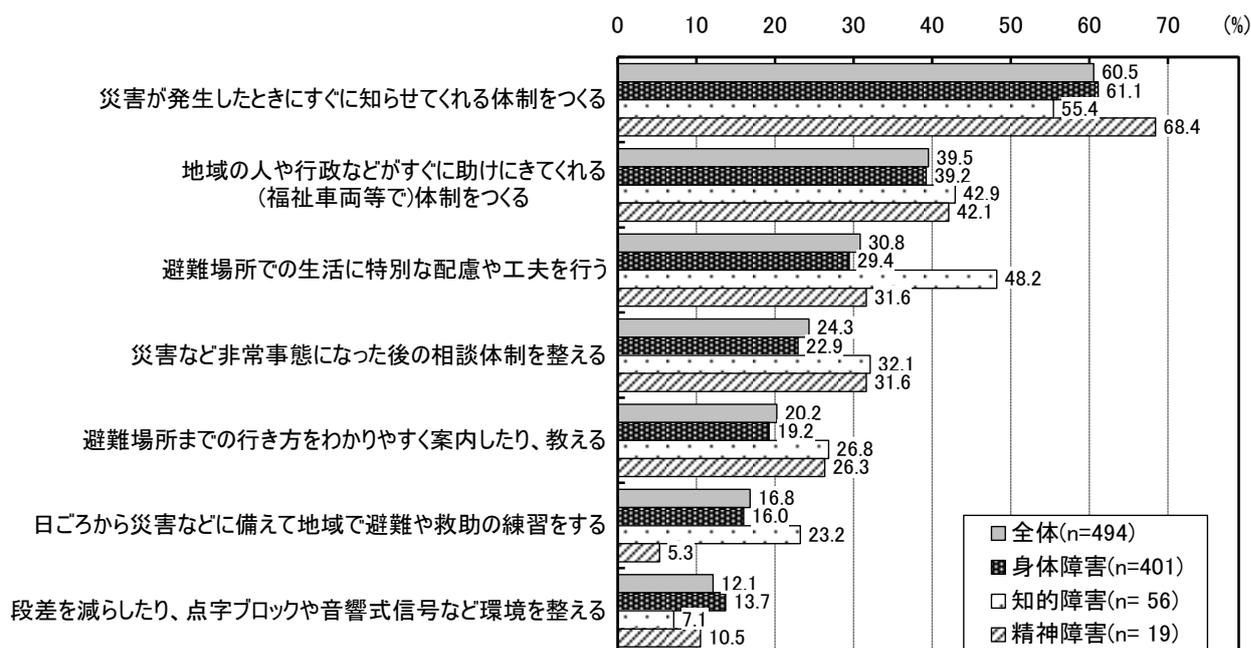
■身体障害者手帳の種類別保持者数

障害の種類別	人数	全体に占める 割合
肢体	533 人	53%
内部 (心臓・腎臓・呼吸器・膀胱又は直腸・ 小腸・免疫・肝臓の機能障害)	325 人	32%
聴覚・平衡	78 人	8%
視覚	61 人	6%
音声・言語・咀嚼	8 人	1%
合計	1,005 人	100%

平成29年3月末日現在

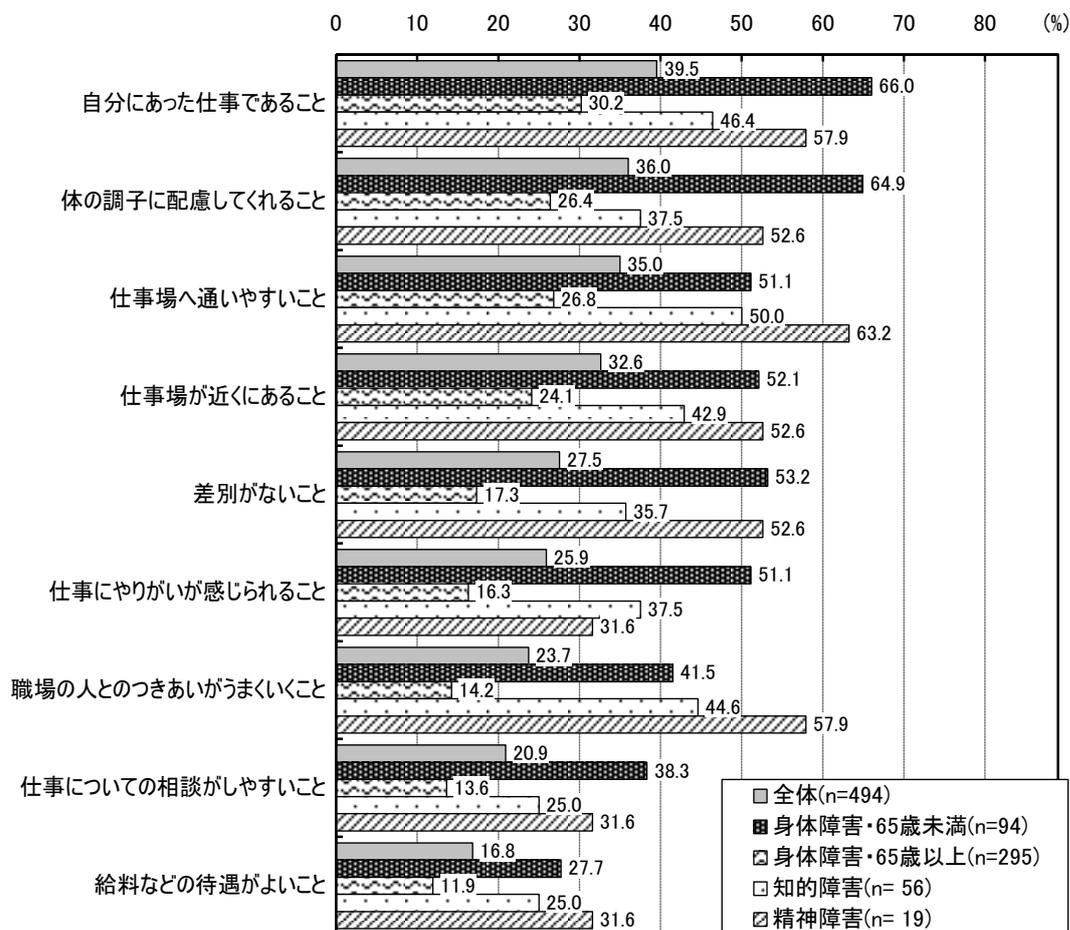
第2章 佐川町の現状

■災害にあったときに避難しやすくするために必要なこと



引用：第3期障害者計画 障害者施策に関わる住民等の意識

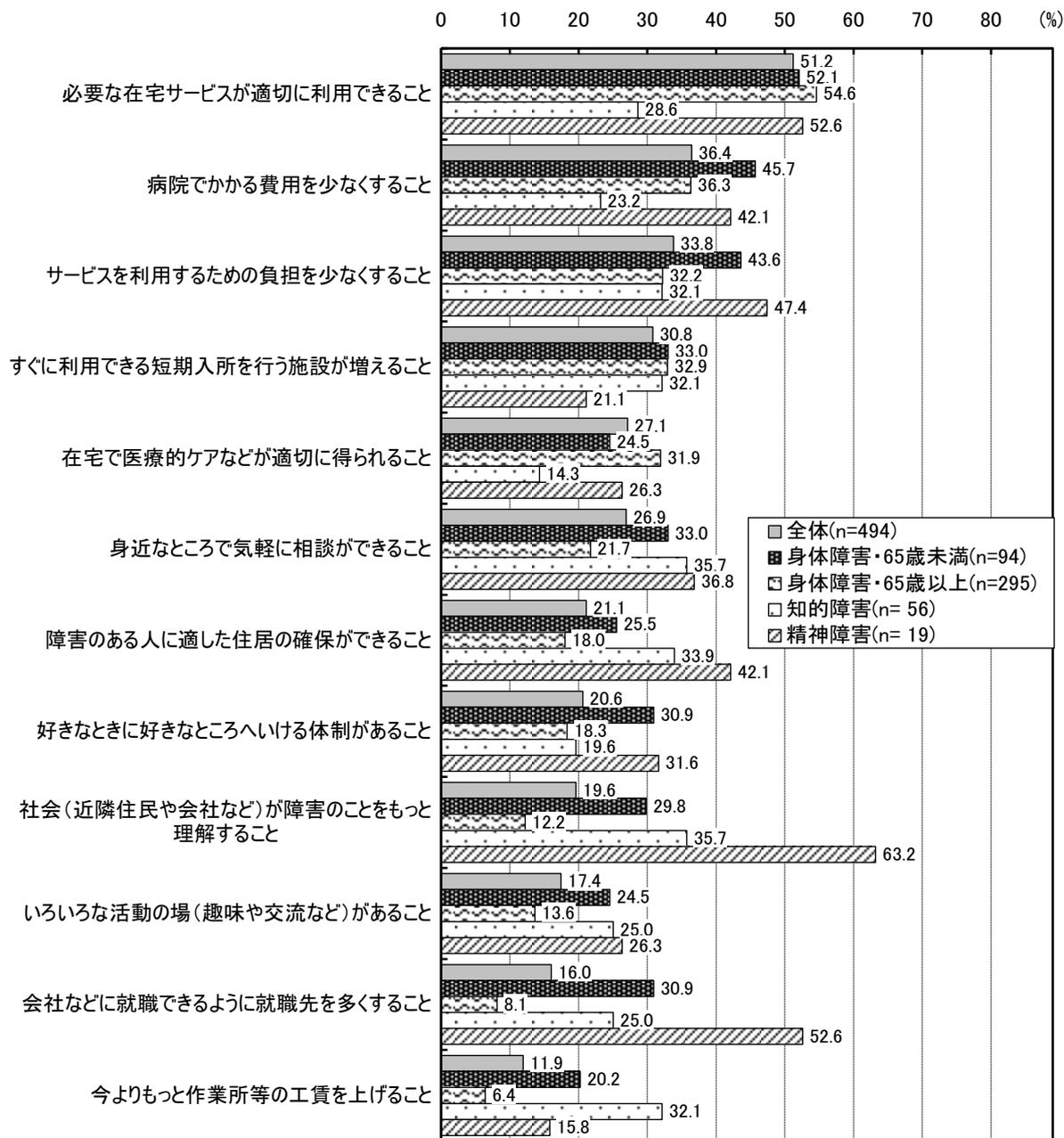
■障害のある人が働くために必要なこと



引用：第3期佐川町障害者計画 障害者施策に関わる住民等の意識

第2章 佐川町の現状

■ 今後、障害福祉に必要なと思うこと

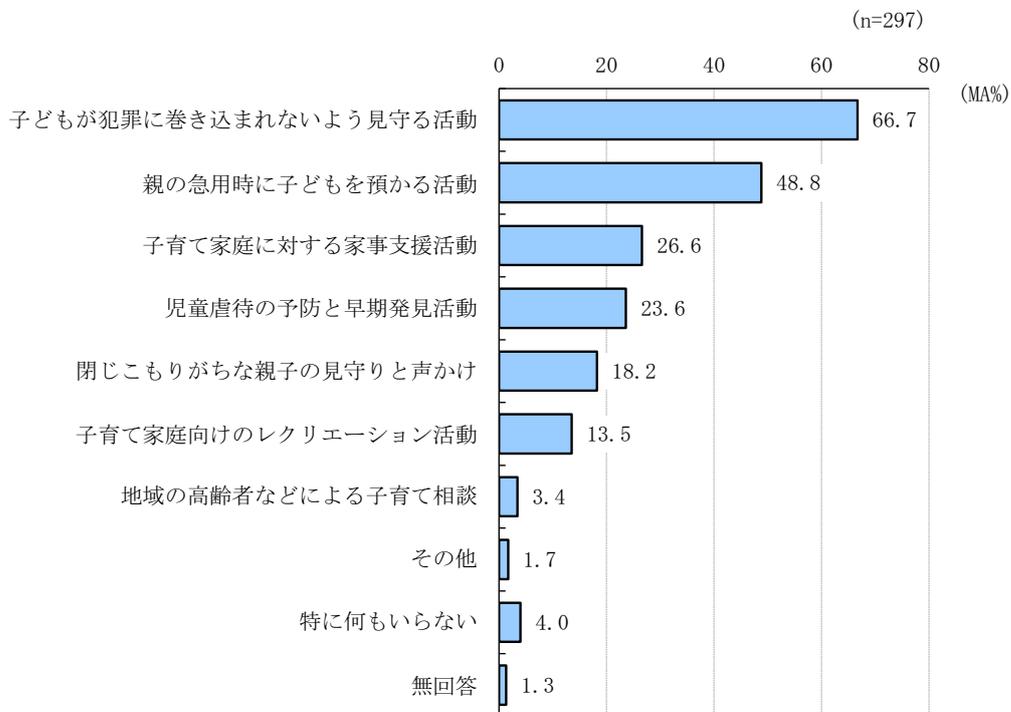


引用：第3期佐川町障害者計画 障害者施策に関わる住民等の意識

4. 子どもの状況

■地域において、あればよいと思う子どもや子育て支援活動

地域において、子どもや子育て家庭に対してどのような支援活動があればよいと思うかは、「子どもが犯罪に巻き込まれないよう見守る活動」が66.7%で最も割合が高く、次いで「親の急用時に子どもを預かる活動」48.8%となっている。

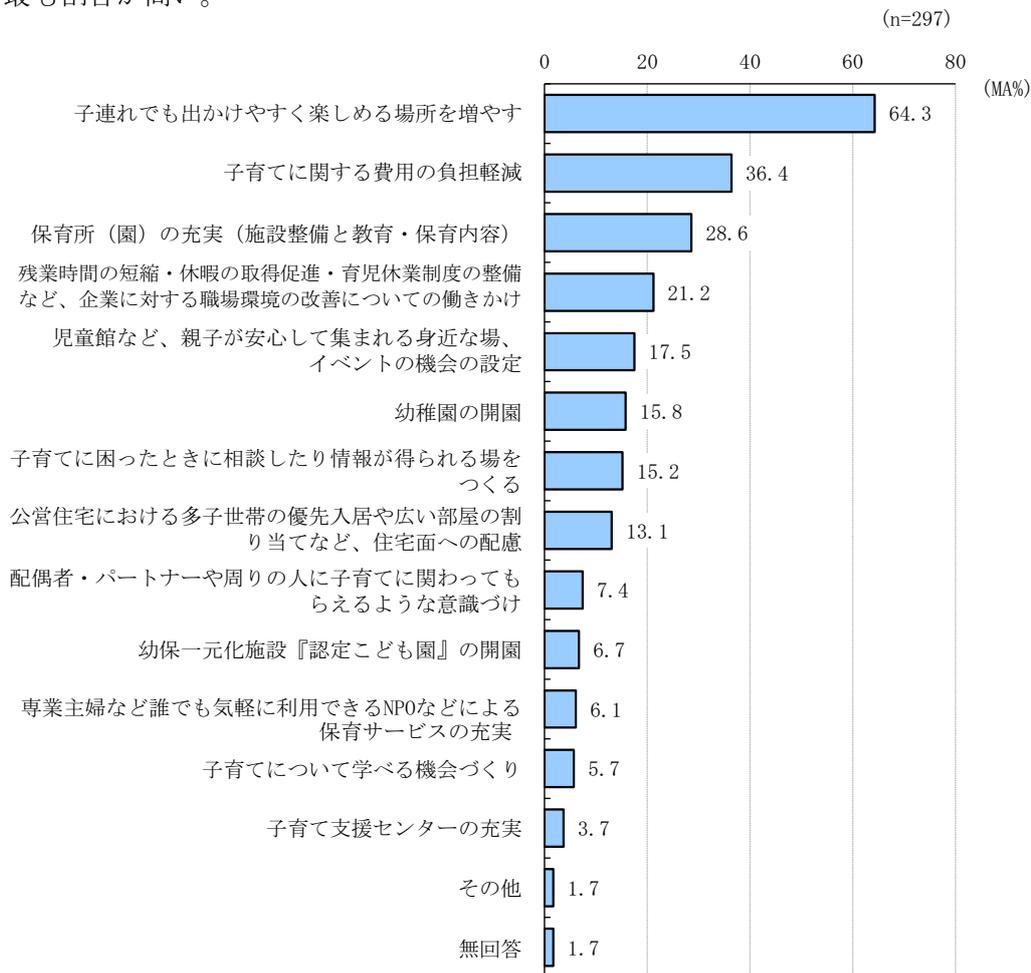


引用：佐川町子ども・子育て支援事業計画 アンケート調査結果

第2章 佐川町の現状

■子育て環境充実のために必要な支援施策

子育て環境充実のために必要な支援策は、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やす」が64.3%で最も割合が高い。



引用：佐川町子ども・子育て支援事業計画 アンケート調査結果



佐川町子育て支援センター「なかよしひろば」

5. その他

(1) 生活困窮者自立支援の現状

佐川町社会福祉協議会では、町の委託を受け、生活困窮者支援を2013（平成26）年11月（生活困窮者自立促進支援モデル事業）より実施しています。生活困窮者支援を実施する中で、その実態が明らかになってきました。生活困窮者は、単に経済的に困窮しているだけではなく下記の特徴がみられます。

- 発達・知的・精神障害（境界層）や、成育環境に問題があるなど、何らかのハンディキャップを有している。
- ハンディキャップを有しているため、集団や地域社会からいじめや排除の対象となる。
- 人間関係での傷つき体験を経て、人に恐怖や不安不信を感じ、関わりができなくなる。
- 社会的孤立に陥り、社会にでられないため経済的にも困窮する。次第に生きる力を失う。

このように、決して本人の責任による生活困窮状態ではなく、生きづらさにより孤立を余儀なくされて生活困窮に陥るということがわかってきました。支援にはお金や仕事などの物理面のみでなく、人との関わりによる不安を取り除いたり、自己有用感を高めてもらえるよう精神的・情緒的な関わりが重要となってきます。

生活困窮者は地域とのつながりがなく社会的に孤立しているため、その存在に気づきにくい場合が多いのですが、本町にも大勢の生活困窮者が存在しており、公的機関の支援のみでは不十分です。前節のとおり地域の力を借り、人との温かなつながりの中で支援して自立に導いていく必要があります。

生活困窮相談支援件数					
年度 件数	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	合計
新規相談	30	28	21	27	106
継続支援	—	40	47	55	55

相談を受け付けた件数、継続支援者数は、まだまだ実態の一部と考えられます。複数の課題を抱えている方が多く自立までには時間がかかるため、継続支援者数は年々増加しています。今後ますます多くの機関や地域との関わりが必要となります。



*佐川町内のゴミ屋敷。孤立しているため隣近所でも実態を知っている人は少ない。

(2) あったかふれあいセンター事業の状況

■活動拠点

- ・あったかふれあいセンターひまわり 【2009（平成21）年10月開所】
- ・あったかふれあいセンターとかの 【2014（平成26）年5月開所】
- ・あったかふれあいセンターくろいわ 【2018（平成30）年4月開所予定】
- ・あったかふれあいセンター加茂の里 【2018（平成30）年4月開所予定】

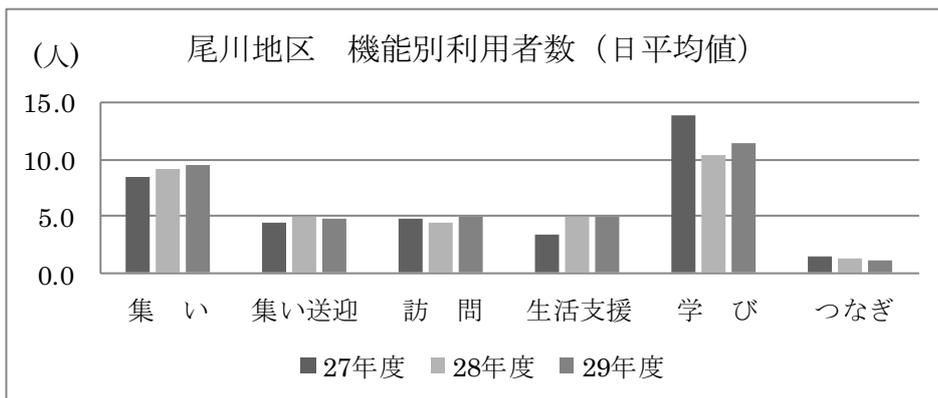
■各あったかふれあいセンターの取組や特徴

〈あったかふれあいセンターひまわり〉

尾川中央保育園内にあり、園児との交流を通じた世代間交流を行っています。近くにある集落活動センター「たいこ岩」では、サテライトとして百歳体操や喫茶を行っています。また、尾川地区活性化協議会と連携して実施している「カレーランチの日」は人気があり、尾川地区外からも多くの参加者があります。

夏には、集落支援員や民生委員、園児と清掃活動を行うなど、地域の皆さんとともに地域づくりにも取り組んでいます。

【利用者数の推移】

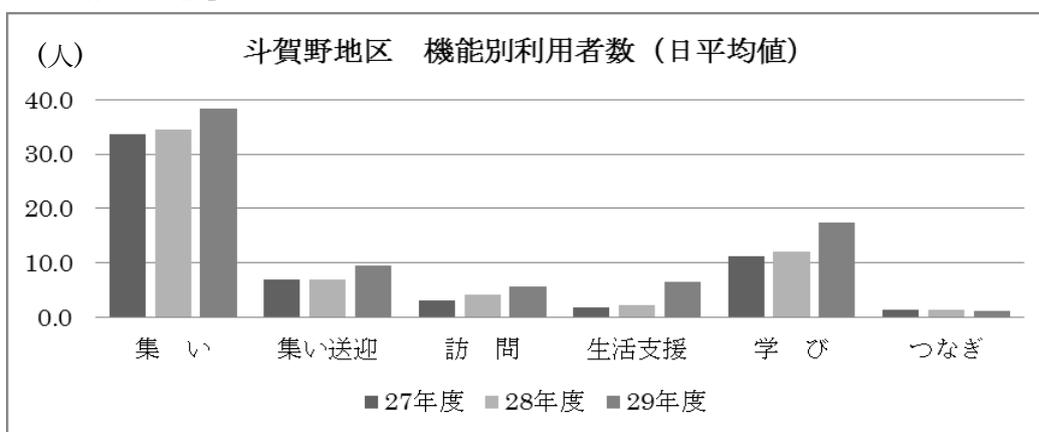


〈あったかふれあいセンターとかの〉

男性の利用者が多いことが特徴で、女性だけでは大変な力仕事を男性の利用者が手伝ってくれたり、たくさんのボランティアが参加したり、あったかふれあいセンター職員と利用者、地域住民が一緒になって、一体的な運営を行っています。また、NPO法人とかの元気村の運営委員による「あったかふれあいセンター運営委員会」を定期的に開催し、あったかふれあいセンターの運営全般に関して意見を出し合い、地域福祉活動の拠点として取組を進めています。

夏休み期間には、「昔の生活体験」など、子どもを対象としたイベントを通して、世代間交流を実施。また、「集い」や「学び」、「交流」の中で利用者だけでなく地域住民みんなを対象とし、出番づくりや生きがいがづくりにも取り組んでいます。

【利用者数の推移】



(3) 災害時の要配慮者対策について

■避難行動要支援者名簿・個別計画書

2015(平成27)年度より名簿の作成を行い、年度ごとに更新しています。2017(平成29)年度は、避難行動要支援者として対象となる方が2,176名おり、その中で、避難支援等関係者に名簿情報を提供することに同意した方1,328名の名簿を登録し、関係者に提供しています。

個別計画書については、2017(平成29)年度より、自主防災組織と民生児童委員の協力を得て作成しています。

避難行動要支援者名簿を地域の自主防災組織や民生児童委員などの関係者に提供することや、個別計画書作成を通じて、平常時からの支え合いや見守りに取り組み、地域の防災力を高めるとともに地域コミュニティの強化を推進していく必要があります。

■福祉避難所

2017(平成29)年度末現在、福祉避難所については下記のとおりとなっています。

〈福祉避難所〉

施設名	受け入れ人数	
	福祉避難所対象者	対象者の付き添い
佐川町健康福祉センターかわせみ	10人	10人
佐川町デイケアセンターさくら荘	10人	10人
佐川町デイサービスセンター斗賀野荘	10人	10人
いこいの里たんぽぽ	20人	20人
さくら福祉事業所	20人	20人
合計	70人	70人

〈広域福祉避難所〉

※土佐市・いの町・日高村・佐川町・越知町・仁淀川町が合同で設置・運営する福祉避難所

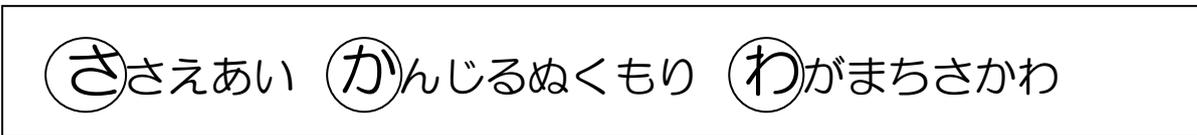
施設名	受け入れ人数	
	福祉避難所対象者	対象者の付き添い
高知県立日高養護学校	12人	12人

当町の災害時要配慮者数と福祉避難所の受け入れ最大人数および被害想定を勘案すると、福祉避難所を利用出来る方は、避難が必要な災害時要配慮者のうち20%弱であり、残りの80%の方は拠点避難所および拠点避難所の福祉避難者スペースで避難生活を送ることになる可能性が高いため、拠点避難所においても災害時要配慮者に対応することができるよう運営訓練を実施していく必要があります。

第3章 計画の体系

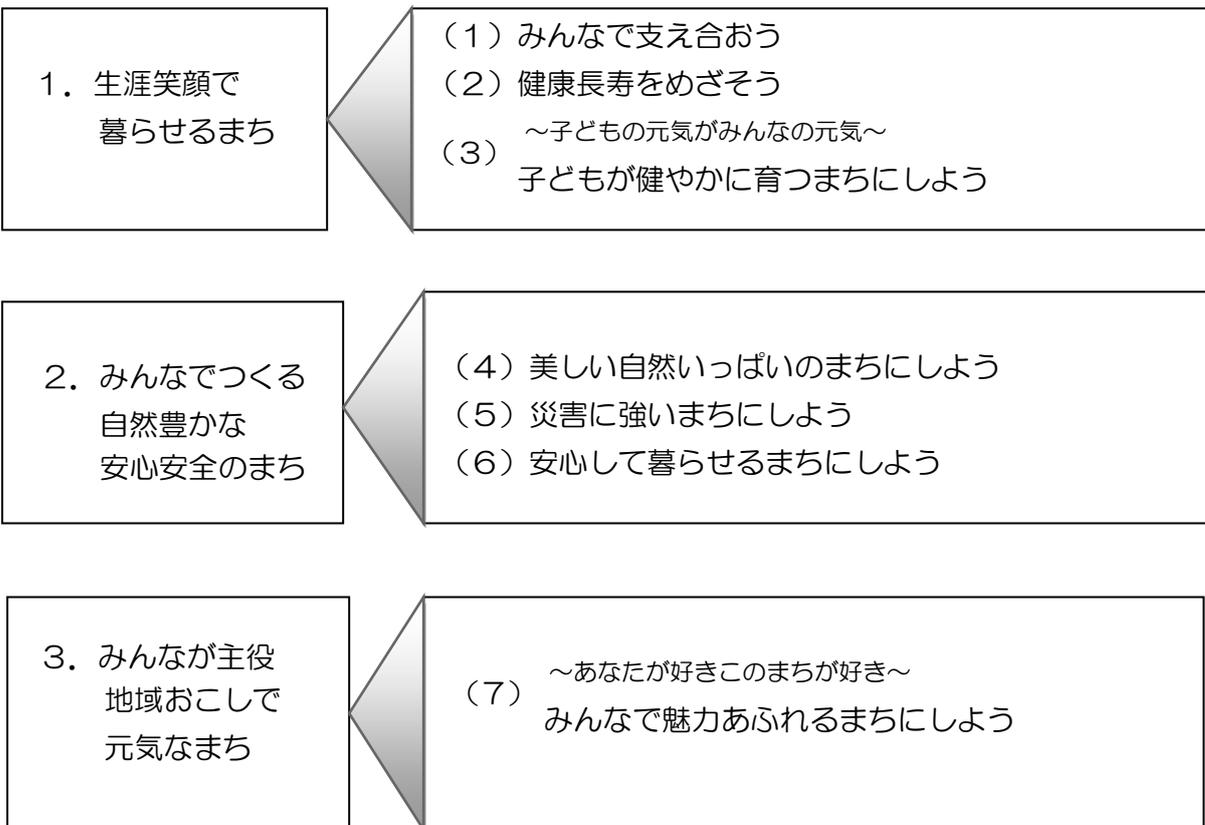
1. 計画体系図

基本構想



重点目標

活動目標



2. 重点目標・活動目標と具体的な取り組み

重点目標 1. 生涯笑顔で暮らせるまち

- 活動目標
- (1) みんなで支え合おう
 - (2) 健康長寿をめざそう
 - (3) ～子どもの元気がみんなの元気～
子どもが健やかに育つまちにしよう

みんなでつくる総合計画 ～さかわの楽しみ方 2025～
【やってみようリスト】 ※詳細は P38 をご覧ください

			
3. 子育て応援団	4. どこでもお悩み相談カフェ	7. めざせ健康体クラブ	9. セカンドライフ夢追い塾
			
14. あいさつ街道	15. 安全安心となり組	19. さかわ散歩の達人	



ファミリーサポートセンター
まかせて会員 養成研修



サンタプロジェクト



龍馬マラソン佐川町から 100 人参加で
マチもココロも盛り上げプロジェクト



いきいき百歳体操

第3章 地域福祉アクションプラン（全体計画）

地域での取り組み

佐川	<ul style="list-style-type: none"> ○つながり深める交流の機会づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆夢まちランドの交流を通じ、相互の助け合い気運の醸成をはかる ◆集落ごとに話し合う場づくり（自治会組織の活性化） ○高齢者が安心して暮らせる地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆百歳体操・ふれあいサロンを充実
斗賀野	<ul style="list-style-type: none"> ○安心して暮らせる地域をつくる <ul style="list-style-type: none"> ◆あったかふれあいセンターを充実させよう ◆高齢者、障害者、認知症の方などを地域で支え合おう ○健やかなこころと体をつくる <ul style="list-style-type: none"> ◆積極的に運動をし、年に1回は健診を受けよう ◆規則正しい生活習慣を身につけよう ◆積極的に集いの場に参加しよう
尾川	<ul style="list-style-type: none"> ○生活支援の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ◆助け合いの仕組みづくり ○健康づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆仲間と楽しく運動しよう ◆あったかふれあいセンターひまわりに参加しよう
黒岩	<ul style="list-style-type: none"> ○だれもが住みたくくなるような地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆子育てがしやすい地域 ◆元気で明るくつながりのある地域
加茂	<ul style="list-style-type: none"> ○人づくり・交流 <ul style="list-style-type: none"> ◆ウォーキング組織の充実 ○高齢者等への生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者の暮らしを守る ○健康づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者自身による健康づくりの取り組み



あったかふれあいセンターひまわり
夏休みバーベキュー



集落活動センターくろいわ
くろいわ食堂

町社会福祉協議会の役割

- ◆地域住民の生活課題を地域住民が気づき、自ら問題解決の手法を検討、実施できる仕組みやプロセスを「みんなで福祉のまちづくり委員会」及び「地区部会」の中で確立できるよう支援をしていきます。また、お隣近所での信頼関係・協力関係が希薄にならないよう、引き続き防災となり組の提案をしていきます。
- ◆あったかふれあいセンターや集落活動センター等と連携し、様々な社会的つながりづくりを支援していきます。安心して集える居場所づくりとその人の経験、知恵や技術を活かした出番づくりを通して、誰もがいきいきと輝く健康長寿のまちを目指していきます。
- ◆子ども達のいきいきと健やかな育ちを地域ぐるみで応援するファミリーサポートセンターの運営や、おたすけ隊によるサンタプロジェクトの支援なども継続し、子ども・保護者・地域が互いに感謝し故郷に誇りを持てる地域づくりを目指します。

町（行政）の役割

（ ）内は第5次総合計画 施策

- ◆住民同士の助け合い・支え合いを推進するため、あったかふれあいセンターや集落活動センター受託団体、集落支援員、民生児童委員、福祉委員、生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）と連携し、体制づくり・仕組みづくりに取り組みます。（施策30、施策38）
- ◆集落活動センター等で実施しているこども食堂や、長期休暇時に実施するイベント等、一番の宝である子ども達が健やかに育ち、多様な人間関係の中で生きる力をつけることができるよう、地域でできる取り組みを推進します。
（施策16、施策17、施策18、施策19、施策38）
- ◆生涯にわたる健康づくりや食育を推進する団体や、住民活動を支援します。（施策28）
- ◆住民の皆さんが主体的に行う健康づくり・介護予防・認知症予防の活動を推進します。
（施策26、施策27、施策28、施策29）
- ◆あったかふれあいセンター等の小地域福祉拠点と連携し、生きがいつくりや出番づくりを支援します。（施策29、施策30、施策38）



食生活改善推進協議会
スーパーにて食育の啓発



よさこいクラブ連合会
運動会優勝



身体障害者協議会
運動会

重点目標 2. みんなでつくる自然豊かな安心安全のまち

- 活動目標 (4)美しい自然いっぱいのまちにしよう
 (5)災害に強いまちにしよう
 (6)安心して暮らせるまちにしよう

..... みんなでつくる総合計画～さかわの楽しみ方2025～

【やってみようリスト】 ※詳細はP38をご覧ください

			
1. まちまるごと植物	5. さかわアドベンチャー・パーク	6. さかわ戦隊 キコリンジャー	14. あいさつ街道
			
15. 安全安心となり組	19. さかわ散歩の達人	24. 山・川・空の贈り物	



NPO法人とかの元気村 園児の川遊びサポート



加茂 バイカオウレンウォーキング



黒岩 桜めぐりウォーキング



自主防災組織 防災訓練

第3章 地域福祉アクションプラン（全体計画）

地域での取り組み

佐川	<ul style="list-style-type: none"> ○つながり深める交流の機会づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織の発展（全地区設置・自主防災組織同士の連携・活動充実） ○子育てしやすく若者が住みたい地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆子育て支援 ◆声かけあって子どもの見守り（地域をウォーキング） ○高齢者が安心して暮らせる地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆SOSが出せる環境づくり
斗賀野	<ul style="list-style-type: none"> ○ゆたかな自然をまもり育てる <ul style="list-style-type: none"> ◆田園風景をいつまでも守っていこう ◆ホタルが住みつくきれいな川にしよう ◆草花を育て自然の風景を守ろう ○安心して暮らせる地域をつくる <ul style="list-style-type: none"> ◆近所づきあいを大切にしよう ◆助け合い組織をつくろう ○防災活動を充実させる <ul style="list-style-type: none"> ◆地域を知って危険箇所の点検をしよう ◆全自治会に自主防災組織をつくり、地域をあげて活動しよう ◆発災時に生かせる防災訓練や防災学習をしよう
尾川	<ul style="list-style-type: none"> ○生活支援の仕組みづくり <ul style="list-style-type: none"> ◆助け合いの仕組みづくり
黒岩	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者が安心して暮らせる地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者等の移動手段の確保 ◆生活支援をする
加茂	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者等への生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ◆高齢者の暮らしを守る ○防災・減災活動 <ul style="list-style-type: none"> ◆自主防災組織の充実



あったかふれあいセンターひまわり
クリーンキャンペーン



中本町 防災訓練



あったかふれあいセンターとかの
お助け大作戦

町社会福祉協議会の役割

- ◆美しい自然を愛する様々な住民活動の情報収集や情報共有を行い機運醸成の支援を進めます。
- ◆災害時に住民全体、とりわけ避難行動要支援者が取り残されないように、それぞれの地域で防災となり組の組織化を通し日常のつながりづくりや、見守りの仕組みづくりを提案していきます。また、大規模災害発生後の避難行動要支援者等の生活復旧等を支援する災害ボランティアセンターについても、毎年訓練を重ねて万一の災害に備えていきます。
- ◆生活課題や地域のお困りごとなどについて、隣近所、自治会、小学校区、全町のレベルでそれぞれキャッチし、関係機関への連携や支えあい組織で解決できる仕組みづくりの支援を行います。社会福祉協議会でも課題の内容を問わず丸ごと相談を受け止める、あんしん生活支援センターを引き続き発展充実させていきます。

町（行政）の役割

（ ）内は第5次総合計画 施策

- ◆町内の自然環境への関心と意識を高める取り組みを推進します。（施策5）
- ◆避難行動要支援者名簿や個別計画書を整備・活用することにより、日頃から声をかけあい、見守りができる地域づくりをすすめ、大規模災害に備えた災害時要配慮者支援体制づくりに取り組みます。（施策32、施策33、施策35）
- ◆福祉避難所や拠点避難所の福祉避難者スペースについて、5地区毎に運営訓練を実施します。この訓練のプロセスを通して、障害や認知症、介護、子育て支援等についての理解を深め、地域共生社会の推進および生活圏域におけるつながりの再生を目指し、分野横断的に重点事業として取り組みます。（施策30、施策31、施策32、施策33）
- ◆より早期の段階で、地域生活課題を把握し、解決を試みることができる環境を整備するため、社会福祉協議会と連携して体制づくりに取り組みます。
（施策30、施策31、施策38）
- ◆地域に出向き、権利擁護について知ってもらうための啓発を行います。（施策45）
- ◆多様化・複雑化するニーズに対して、支援関係機関の協働による課題解決ができるよう、包括的な相談支援体制を構築します。そのために、様々な支援機関合同の勉強会や研修会を開催し、スキルアップ・レベルアップに努めます。（施策30）
- ◆生活困窮者自立支援について、社会福祉協議会との協働により、生活・就労・医療などの分野横断的な体制づくりをすすめます。（施策30、施策38）



日赤奉仕団 防災頭巾づくり



福祉避難所運営訓練

重点目標 3. みんなが主役 地域おこしで元気なまち

活動目標 (7) ~あなたが好き このまちが好き~
 みんなで魅力あふれるまちにしよう

みんなでつくる総合計画～さかわの楽しみ方2025～

【やってみようリスト】 ※詳細はP38をご覧ください

			
9. セカンドライフ 夢追い塾	10. どこでもマーケット	13. さかわを食べる	16. どこでも居酒屋
			
17. あったか移住プログラム	19. さかわ散歩の達人	20. ふるさと学	22. みんなの情報発信
			
23. さかわの踊り子	25. まじめに、おもしろい 地域の日		



斗賀野 白倉神社花取踊



黒岩 四ツ白太刀踊



尾川踊り・秋祭り



セカンドライフ夢追い塾

第3章 地域福祉アクションプラン（全体計画）

地域での取り組み

佐川	<ul style="list-style-type: none"> ○つながり深める交流の機会づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆人が集まるイベント（花見・佐川おどり・B級グルメ大会など） ○子育てしやすく若者が住みたい地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ◆農地を使った交流 ◆若い頃から地域に参加 ○町の資源をフル活用した地域おこし <ul style="list-style-type: none"> ◆IT活用で情報発信 ◆佐川の魅力をもっと知ろう（歴史・文化・人）
斗賀野	<ul style="list-style-type: none"> ○元気なひとづくり・地域づくりをする <ul style="list-style-type: none"> ◆居場所と出番を構えて生きがいつくりにつなげよう ◆集落活動センターを拠点に地域活動を充実発展させよう ◆地域のイベントに参加しよう ◆地域の文化、伝統をまもろう ◆産業を育て働く場をつくろう
尾川	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ◆世代間交流を通じ後継者の育成をはかる ◆地域文化の継承
黒岩	<ul style="list-style-type: none"> ○集落活動センターの活用 <ul style="list-style-type: none"> ◆あったかふれあいセンターの開設 ◆黒岩地区内の情報伝達・共有 ◆集落活動センター事業の活性化 ○黒岩の伝統やイベントの継承 <ul style="list-style-type: none"> ◆ネットワーク作り ◆広報活動
加茂	<ul style="list-style-type: none"> ○人づくり・交流 <ul style="list-style-type: none"> ◆集落活動センター加茂の里を活用した交流機会の充実 ◆女性のネットワークづくり ◆祭りを通じた世代間交流 ◆定住の促進 ◆人材を発掘し、各種教室の開催 ○地域の活性化 <ul style="list-style-type: none"> ◆休耕田の有効活用で地域の活性化

第3章 地域福祉アクションプラン（全体計画）

社会福祉協議会の役割

- ◆お祭りやイベントなどを通して、自分のまちを好きになり大切にしていける心の醸成や、仲間づくりやお互いの協力関係が発展していくように、関係機関と連携して地域の祭りやイベントをバックアップできるネットワークづくりを目指していきます。
- ◆ボランティアセンターが実施するセカンドライフ夢追い塾などを通して人材を掘り起こし、関係機関と連携しつつ人に頼られる出番づくりを進めます。

町（行政）の役割

（ ）内は第5次総合計画 施策

- ◆集落活動センターに関する業務を所管するチーム佐川推進課や、庁内の関係課と連携し、地域が活性化するための仕組みづくり、人づくりに取り組みます。（施策25、施策38）
- ◆ウォーキング事業を通して、チーム佐川推進課や観光協会、教育委員会と連携し、各地区の歴史や文化について学びを深め、魅力を知る機会をつくります。また、ウォーキングイベント等のフィールドワークを行います。
（施策2、施策5、施策20、施策21、施策24、施策28）
- ◆地域福祉活動へのきっかけづくりや参加促進等に関する取り組みを実施します。
（施策29、施策38、施策44）
- ◆伝統行事を継承する住民活動をサポートし、地域活性化のプロセスを通して、人と人とのつながりの維持・再生を目指します。（施策3、施策38）
- ◆地域で開催する伝統行事・イベント等を積極的に広報し、共に取り組む仲間づくりを支援します。（施策4、施策21、施策38）



加茂地区 お宝発見ウォーキング マップ作り

3. みんなの心得

① さんかしよう

地域のイベントや活動
に積極的に参加しよう

② かんがえよう

何事も、相手の立場
で考えよう

③ わをつくろう

友達や地域の「輪」で
「和」をつくろう

佐川町第5次総合計画 ～佐川の楽しみ方 2025～

未来のさかわにつながる やってみたいリスト

育
て
る

- 01  まちまるごと植物園
 植栽会に参加しよう
 軒先ガーデニングに挑戦しよう
 植物のまちをPRしよう
- 02  みんなの寺子屋
 できまですバンクに登録しよう
 自分が得意なことを恥ずかしがらず自慢しよう
 まずは仲間内から教え合おう
- 03  子育て応援団
 地域の子どもは自分の子どもと考えよう
 新米お母さん・お父さんと仲良くなろう
 子育ての経験を次の世代へバトンしよう
- 04  どこでもお悩み相談カフェ
 井戸端会議は絶好のチャンスと考えよう
 移住者の不安にアドバイスしてあげよう
 誰でも相談できるお茶会をひらこう
- 05  さかわアドベンチャー・パーク
 さかわの自然を大切にしよう
 子どもたちをどンドン外に送り出そう
 大人の目で、子どもたちを見守ろう

チ
ャ
レ
ン
ジ

- 06  さかわ戦隊 キコリンジャー
 森を歩き、林業のことを学ぼう
 地域で眠っている山を預けてみよう
 キコリンジャーになってみよう
- 07  めざせ健康体クラブ
 みんなで定期的に健康診断へ行こう
 運動会などの地域イベントに参加しよう
 散歩、体操、とにかく毎日身体を動かそう
- 08  さかわ発明ラボ
 家族、友人と一緒に発明ラボに参加しよう
 自分がつくりたいものに気軽に挑戦してみよう
 仲間とともに、ものづくりのアイデアを考えてみよう
- 09  セカンドライフ夢追い塾
 地域お助け隊、セカンドライフ夢追い塾に入隊しよう
 培った経験は地域の宝物だと自信をもとう
 還暦後でも新しい友だちをつくってみよう
- 10  どこでもマーケット
 青空さかわマーケットに出店しよう
 道の駅で手づくり食品・グッズを販売しよう
 さかわのマーケットを巡ってみよう
- 11  さかわチャレンジ
 さかわで農業に挑戦してみよう
 みんなでビジネスに挑戦しよう
 役場の空き家バンクに登録しよう

食
べ
る

- 12  クリエイティブ農家
 かわいい農業をイメージしよう
 6次産業化に挑戦してみよう
 生産・経営・マーケティングを学ぼう
- 13  さかわを食べる部
 農作物をつかった特産品をつくろう
 さかわの新しいレシピを考えよう
 地域の先輩に伝統料理を教えてもらおう

お
と
な
り
さ
ん

- 14  あいさつ街道
 自分から、元氣よくあいさつをしよう
 登下校中の小中高生を見守ってあげよう
 あいさつされたら、しっかり返そう
- 15  安全安心となり組
 困っているおとなりさんを助けよう
 自分自身も助けられ上手になろう
 乗り合い文化を推進しよう
- 16  どこでも居酒屋
 持ち寄り晩酌会に誘ってみよう
 お酒の力を借りてリフレッシュしよう
 思い切って居酒屋の看板を掲げてみよう
- 17  あったか移住プログラム
 自分から、元氣よくあいさつをしよう
 登下校中の小中高生を見守ってあげよう
 あいさつされたら、しっかり返そう
- 18  さかわ愛ランド
 未婚の方には、おせっかいをやこう
 さかわに縁結びスポットをつくろう
 佐川町ならではの婚活イベントをひらこう
- 19  さかわ散歩の達人
 地域のウォーキングコースをつくろう
 散歩道にベンチをつくろう
 散歩を楽しむチームをつくろう

ふ
る
さ
と

- 20  ふるさと学
 地元・さかわの歴史・文化・産業について学びを深めよう
 佐川の魅力をフィールドワークしよう
 林業・農業などの地元の仕事を体験しよう
- 21  チームさかわ便り
 全国へふるさとの便りを届けよう
 特産品を通じてさかわの魅力を伝えよう
 ふるさと納税をアピールしよう
- 22  みんなの情報発信局
 住民みんなが観光大使になろう
 町外の友だちにさかわの自慢をしてみよう
 さかわの魅力を伝えるビデオをつくろう
- 23  さかわの踊り子
 地元の祭りに参加しよう
 地域の人に踊りを教えてもらおう
 伝統の踊りを踊ってみよう
- 24  山・川・空の贈り物
 気づいたら、ゴミを拾おう
 環境に配慮した生活を送ろう
 自然観察会へ参加・開催しよう

ま
じ
め
に

- 25  まじめに、おもしろい
地域の日
 伝統行事に参加してみよう
 365日を楽しむイベントを開催しよう
 イベントを通して仲間を増やそう

第4章 各地区計画

佐川地区計画

地区計画策定の背景

佐川地区においては、地域への帰属意識の低下による地域の絆の脆弱化、高齢化などもあり、地域での諸活動の停滞や存続が危ぶまれており「困ったときはお互い様」の“支えあえる地域づくり”の土台が揺るがされつつある。

一方で、自主防災組織活動で地域の繋がりを再構築する動きや、支えあうまちづくりで若者流出減少、地区が持つ文化・観光資源活用と住民活動の融合なども議論されつつある。

このように将来への不安や期待があるため、さまざまな障害を乗り越えての住民の主体的活動や一体感の醸成がもとめられている。

これに対し、平成28年12月に発足したさかわ夢まち協議会が拠点（さかわ夢まちランド）を軸に住民交流活動を活発化させている。この活動を維持・拡大し交流を通し顔が見える地域を基礎に、地区全体では防災、見守り、交流や観光、人口増加などを協議し、行政等と協働できる場の創設が求められている。

目指す姿・スローガン

人とひと つながれひろがれ 我が町さかわ

重点目標

- つながり深める交流の機会づくり
 - ◆夢まちランドの交流を通じ、相互の助け合い気運の醸成をはかる
 - ◆集落ごとに話し合う場づくり（自治会組織の活性化）
 - ◆人が集まるイベント（花見・佐川おどり・B級グルメ大会など）
 - ◆自主防災組織の発展（全地区設置・自主防災組織同士の連携・活動充実）
- 高齢者が安心して暮らせる地域づくり
 - ◆百歳体操・ふれあいサロンを充実
 - ◆SOSが出せる環境づくり
- 子育てしやすく若者が住みたい地域づくり
 - ◆農地を使った交流
 - ◆子育て支援
 - ◆若い頃から地域に参加
 - ◆声かけあって子どもの見守り（地域をウォーキング）
- 町の資源をフル活用した地域おこし
 - ◆IT活用で情報発信
 - ◆佐川の魅力をもっと知ろう（歴史・文化・人）



さかわ夢まちランド 外観

第4章 各地区計画

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 さかわ夢まち協議会（みんなで福祉のまちづくり佐川支部）
- ・関係組織 消防団佐川分団、自主防災組織、佐川地区自治会長会、佐川地区民生委員児童委員、福祉委員、佐川小中学校 PTA、保育園保護者会（若草、花園）、商工会（青年部・女性部含）、くろがねの会、老人クラブ、百歳体操お世話人、ふれあいサロン協力員
- ・地域の拠点 さかわ夢まちランド、あったかふれあいセンター

さかわ夢まちランドオープン



日常の交流



夏休み親子工作教室



バザー&フリーマーケット



もちつき大会



自主防災組織 かまどベンチ作り



上町酒蔵ウォーキング



斗賀野地区計画

地区計画策定の背景

佐川町内の人口の約25%を占める斗賀野地区は、少子高齢化は徐々に進んでいるものの、平成29年1月末現在の高齢化率36.5%は町内全域の高齢化率を若干下回っており、人口の減少はあるものの比較的緩やかとなっている。虚空蔵山などに囲まれた盆地で自然に恵まれた静かな田園地帯が広がり、その地勢や気候を利用した水稲、ニラなどの農業が盛んな地区となっている。また、地区内にはJR斗賀野駅・襟野々駅があり、国道494号が地区の中心部を通るなど、交通の便は比較的良好。

平成17年に設立したNPO法人「とかの元気村」を中心とし、あったかふれあいセンターや集落活動センターでの地域活動が活発で、風土と合わせて、斗賀野地区に魅力を感じた町外からの転入者も多い。

比較的コミュニティ活動が活発な地域ではあるが、計画策定にあたって実施した地域のお世話役さんに対するアンケートによると、今後取り組むべき課題として、地域コミュニティづくり、自主防災活動、高齢者障害者への生活支援が上位にあがっており、地域の絆や人のつながりを大切にし、高齢者等へのお困りごとへの対応も必要だとの思いが現れている。また、自然環境、健康づくりに対する住民意識が高く、環境活動や介護予防・健康づくり活動なども盛んな地域でもある。

目指す姿・スローガン

近所づきあい たすけあい 笑顔つながる里づくり

重点目標

- ゆたかな自然をまもり育てる
 - ◆田園風景をいつまでも守っていこう
 - ◆ホテルが住みつくきれいな川にしよう
 - ◆草花を育て自然の風景をまもろう
- 安心して暮らせる地域をつくる
 - ◆近所づきあいを大切にしよう
 - ◆助け合い組織をつくろう
 - ◆あったかふれあいセンターを充実させよう
 - ◆高齢者、障害者、認知症の方などを地域で支え合おう
- 健やかなところと体をつくる
 - ◆積極的に運動をし、年に1回は健診を受けよう
 - ◆規則正しい生活習慣を身につけよう
 - ◆積極的に集いの場に参加しよう



あったかふれあいセンターとかの集い

○元気なひとづくり・地域づくりをする

- ◆居場所と出番をかまえて生きがいつくりにつなげよう
- ◆集落活動センターを拠点に地域活動を充実発展させよう
- ◆地域のイベントに参加しよう
- ◆地域の文化・伝統をまもろう
- ◆産業を育て働く場をつくろう

○防災活動を充実させる

- ◆地域を知って危険箇所の点検をしよう
- ◆全自治会に自主防災組織を作り、地域をあげて活動しよう
- ◆発災時に生かせる防災訓練や防災学習をしよう



昔ながらの七夕祭

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 あったか福祉推進協議会（みんなで福祉のまちづくり斗賀野地区部会）
- ・関係組織 NPO法人とかの元気村、斗賀野地区自治会長会、斗賀野よさこいクラブ、斗賀野地区自主防災組織連絡会、とかの女子会、コスモス農協斗賀野支所、JAコスモスにここ会斗賀野支部、斗賀野中央保育園保護者会、永野保育所後援会、斗賀野小学校PTA、町消防団斗賀野分団、サロン・百歳体操世話人、民生委員児童委員、福祉委員、その他当計画の推進に協力してくださる組織など
- ・地域の拠点 とかの元気村役場、あったかふれあいセンターとかの、集落活動センターあおぞらなど

お助け大作戦



あおぞら食堂



クラフトバッグ作り



地区民運動会



敬老会



夏休み 流しそうめん



尾川地区計画

地区計画策定の背景

尾川地区は佐川町の中で高齢化率が48%と最も高く、少子高齢化及び過疎化が進んでおり、今後もこの傾向が続くと予想される。

アンケート等では、「地域に関心の無い人が増えている」・「高齢化が進んで、活動が停滞している」の課題意識が高く、人口減少やお世話役さん等の後継者不足による地域の衰退が課題。また、交流の場が少なくなり住民同士の支え合いの力も弱まるなど、地域の将来に不安を感じている。

これら諸問題を解決するために、若者定住・結婚の機会づくり、若者の地域活動への参加、高齢者による健康づくりや介護予防、住民同士仲良くなれる活動が求められており、地域活動として、若者定住、自主防災組織の充実、高齢者障害者への支援づくりなどが上げられている。

目指す姿・スローガン

未来に夢を 明るい尾川

重点目標

- 生活支援の仕組みづくり
 - ◆助け合いの仕組みづくり
- 地域の活性化
 - ◆世代間交流を通じ後継者の育成をはかる
 - ◆地域文化の継承
- 健康づくり
 - ◆仲間と楽しく運動しよう
 - ◆あったかふれあいセンターひまわりに参加しよう



高知県立大学 学生との協働作
「おがわものがたり」

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 尾川地区活性化協議会
- ・関係組織 尾川地区自主防災組織連絡会、尾川地区部落長会
保育園保護者会・小中学校PTA、尾川分団、百歳体操世話人
民生委員、福祉委員、あったかふれあいセンター運営委員会
みこしや、婦人防火クラブ、キッチンやまぼうし
- ・地域の拠点 集落活動センターたいこ岩・あったかふれあいセンターひまわり

集落活動センターたいこ岩



キッチンやまぼうし



高知県立大学 学生と協働
でピザ釜作り



ピザ釜を使った交流



秋祭り



移住体験ツアー



ふれあいの里尾川公園整備



尾川小・中学校と学校応援団



尾川城趾整備



桜祭り ぼんぼり準備



黒岩地区計画

地区計画策定の背景

黒岩地区は、特産品を生かした産業振興等の地域おこしや、伝統芸能や祭りの継承保存に積極的に取り組んでいる一方、高齢化による活動の停滞、後継者不足、人口流出、地域のつながりの脆弱化といった課題を抱えており、地域の将来に不安を感じている。

また黒岩で安心して暮らし続けていく上で、高齢者や障害者の移動手段の確保、防災・水害対策への地域住民からの早急な行政支援を求めている。

これら課題や目標を解決するために、生活支援の仕組みづくり、自主防災組織活動、地域のコミュニティーづくり、若者定住促進、自治会組織の活性化、集落活動センターやあったかふれあいセンターを拠点とした住民主体の取り組み等の必要性が上げられている。

目指す姿・スローガン

いきいき黒岩 和になろう

重点目標

- だれもが住みたくなるような地域づくり
 - ◆子育てがしやすい地域
 - ◆元気で明るくつながりのある地域
- 高齢者が安心して暮らせる地域づくり
 - ◆高齢者等の移動手段の確保
 - ◆生活支援をする
- 集落活動センターの活用
 - ◆あったかふれあいセンターの開設
 - ◆黒岩地区内の情報伝達・共有
 - ◆集落活動センター事業の活性化
- 黒岩の伝統やイベントの継承
 - ◆ネットワーク作り
 - ◆広報活動



集落活動センターくらいわ 開所式

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 黒岩いきいき応援隊（みんなで福祉のまちづくり黒岩地区部会）
- ・関係団体 自主防災組織、水害対策会議、消防団黒岩分団、黒岩中央保育所保護者会、黒岩小中学校PTA、黒岩親の会、自治会長会、民生委員児童委員、福祉委員、イベント関係者、農業関係団体、黒岩老人クラブ、百歳体操お世話人、黒岩保育所、黒岩小学校、黒岩中学校、その他当計画の推進にご協力くださる方
- ・地域の拠点 集落活動センターくらいわ・あったかふれあいセンターくらいわ

くろいわ kitchen ほっぺ モーニングカフェ



夏休み 流しそうめん



くろいわ kitchen ほっぺ くろいわ食堂



田園癒しウォーキング&芋煮会



黒岩地区 敬老会



河川沿いの草刈り



ビアガーデン



瑞応盆踊り



加茂地区計画

地区計画策定の背景

5年前は佐川町でも高齢化率が低い地区であったが、平成29年に実施した介護予防・日常生活圏域ニーズ調査では、移住年代が一気に高齢化を迎えたことにより高齢化率の上昇が顕著にみられる。また、閉じこもりリスク、認知機能の低下リスク、うつリスクは、他の地区と比べて最も多くなっている。

集落活動センターの開設により地域のコミュニティー作りは進んできたが、高齢化による活動の停滞や地区リーダーの次世代育成など諸問題を解決するため、あったかふれあいセンターの開所と合わせて、加茂の里づくり会と自治会が地域の将来を見据えて、地区住民とともに取り組みを積極的に進めていく必要がある。

目指す姿・スローガン

交流で つちかう絆と 人づくり

重点目標

○人づくり・交流

- ◆集落活動センター加茂の里を活用した交流機会の充実
- ◆女性のネットワークづくり
- ◆祭りを通じた世代間交流
- ◆ウォーキング組織の充実
- ◆定住の促進
- ◆人材を発掘し、各種教室の開催

○高齢者等への生活支援

- ◆高齢者の暮らしを守る

○健康づくり

- ◆高齢者自身による健康づくりの取り組み

○防災・減災活動

- ◆自主防災組織の充実

○地域の活性化

- ◆休耕田の有効活用で地域の活性



集落活動センター加茂の里
バイカオウレン週間 ウォーキングイベント

推進主体（地区部会）の発展・強化

- ・推進主体 加茂の里づくり会
- ・関係団体 みんなで福祉のまちづくり加茂地区部会、加茂地区自主防災組織連絡会、加茂地区自治会長会、保育園保護者会、小中学校PTA、消防団、環境を守る会、こじゃんとはたら来家さかわ、百歳体操世話人、民生委員、福祉委員、加茂地区教育委員会、その他協力くださる方及び組織
- ・地域の拠点 集落活動センター加茂の里、あったかふれあいセンター加茂の里

シコクバイカオウレン群生地の整備



農地を活用した園児の自然体験



地区民運動会



味噌作り



こども食堂



第5章 計画推進体制

1. 推進体制

計画を推進するためには、地域住民、様々な団体、社会福祉協議会、行政が協働し、この地域では何が必要か話し合い、地域の合意と関係機関の協力のもと、スクラムを組んで活動を進めていくことが必要です。

その話し合いをする場（組織）が、下記の「みんなで福祉のまちづくり委員会」、「みんなで福祉のまちづくり地区部会」及び「専門部会」であり、それぞれの組織が互いに連携しながら計画を推進していきます。

2. みんなで福祉のまちづくり委員会

この委員会では、佐川町全体の計画について進行管理を行います。

計画の進捗状況の把握や評価をPDCAサイクル（計画→実行→評価→改善）により実施するとともに、町全体の取り組みについての検討・実施、各地区部会・専門部会の取り組み支援などを話し合います。

全体計画の各年度における取組方針や進捗評価などを話し合う定例総会を年1回開催するとともに、必要に応じて臨時の会議を開催します。

3. みんなで福祉のまちづくり地区部会

地区（佐川・斗賀野・尾川・黒岩・加茂）毎の活動について検討・実施する部会です。

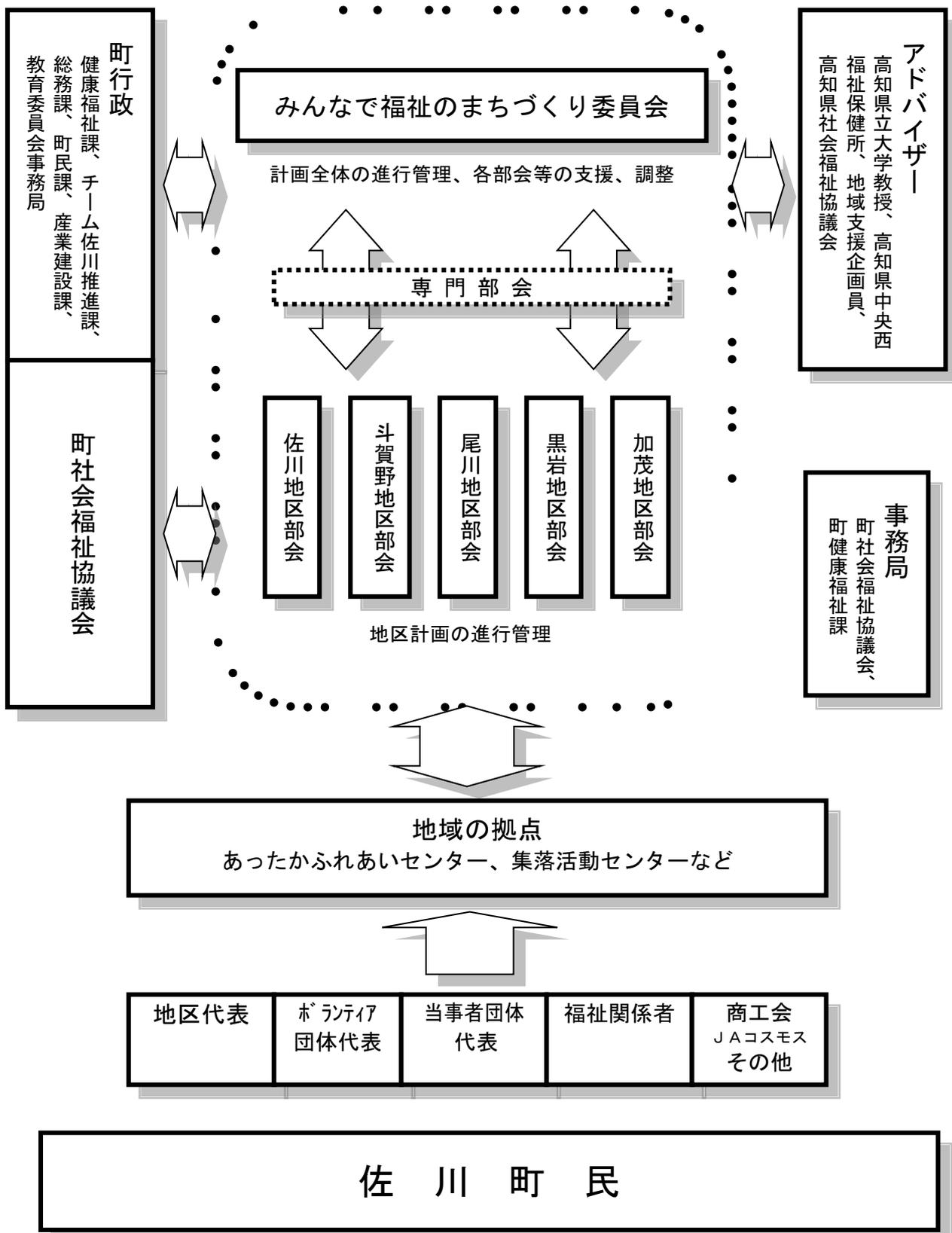
地区部会は、地区計画の推進主体として、地域の拠点であるあったかふれあいセンターや集落活動センター、関係団体や地区内の自治会との連携・調整を図り、地区計画の進行管理を行います。また、町全体計画に基づく地区内の活動にも取り組みます。各地区で活動している団体や個人により構成し、年数回程度、各地区の実情に合わせた形で会議（話し合い）を行います。会議には必要に応じて、事務局及び町行政・町社会福祉協議会の職員も同席し、地域と行政・社会福祉協議会が一体となって地区計画の取り組みを推進します。

4. 専門部会

地区を越えた同一の分野で必要に応じて専門部会を設置し、課題について検討・実施を行う部会です。

専門部会は、特定の課題について地区の中だけでは解決が難しいようなものやその他必要に応じて設置し、関係者等が集まって課題に取り組みます。

【推進体制図】



資料編

1. 平成 29 年度地域お世話役さん対象アンケート調査結果

※（ ）の数字は、平成 24 年度第 2 次計画策定にかかる調査時の数値

調査票配布依頼 461 名（前回：364 名）
5 月 29 日発送 6 月 9 日締め切り
郵送依頼 郵送返信
回収 344 名 回収率 74.6%（前回：回収 272 名 回収率 74.7%）

※今回アンケートでは、サロンの協力員さんも対象に含めたことから、配布依頼した人数が大幅に増加した。

Q 1 自分が住んでいる「地域」という場合に、どの程度の範囲をイメージされますか。最も近いもの 1 つを選んで□に印をつけてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
① 隣近所	33 (6)	10% (2%)	9% (2%)	10% (0%)	10% (4%)	15% (6%)	4% (5%)
② 自治会内の班	36 (15)	10% (6%)	14% (8%)	12% (2%)	3% (4%)	0% (0%)	9% (15%)
③ 自治会	93 (135)	27% (50%)	36% (56%)	19% (47%)	30% (41%)	17% (45%)	30% (45%)
④ 近隣のいくつかの自治会	60 (56)	17% (21%)	13% (18%)	17% (25%)	30% (19%)	22% (3%)	22% (15%)
⑤ 小学校区	77 (41)	22% (15%)	10% (6%)	30% (20%)	27% (22%)	39% (6%)	22% (20%)
⑥ 佐川町全域	36 (18)	10% (7%)	16% (8%)	8% (6%)	0% (11%)	5% (6%)	13% (0%)
⑦ わからない	0 (0)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
回答なし	9 (1)	3% (0%)	2% (1%)	4% (0%)	0% (0%)	2% (0%)	0% (0%)

Q 2 あなたの住む地域を教えてください。ひとつ選んで□に印をつけてください。

- | | | |
|--------------------------------|------|--------|
| <input type="checkbox"/> 佐川地区 | 135人 | (109人) |
| <input type="checkbox"/> 斗賀野地区 | 115人 | (85人) |
| <input type="checkbox"/> 尾川地区 | 30人 | (27人) |
| <input type="checkbox"/> 黒岩地区 | 41人 | (31人) |
| <input type="checkbox"/> 加茂地区 | 23人 | (20人) |

資料編

※以降のアンケートで「あなたの住む地域」とはあなたの住む小学校区でお考えください。

Q3 ここ4～5年、あなたの住む地域の住み心地として最も近いものを1つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
非常に住みやすくなった	17 (8)	5% (3%)	7% (5%)	2% (1%)	3% (4%)	7% (3%)	4% (0%)
やや住みやすくなった	53 (41)	15% (15%)	13% (15%)	18% (15%)	13% (19%)	17% (16%)	17% (10%)
以前と変わらない	209 (164)	61% (60%)	63% (61%)	62% (65%)	70% (56%)	49% (52%)	52% (60%)
やや住みにくくなった	54 (55)	16% (20%)	15% (18%)	15% (18%)	10% (19%)	22% (29%)	22% (30%)
非常に住みにくくなった	1 (2)	0% (1%)	0% (2%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	4% (0%)
わからない	8 (1)	2% (0%)	1% (0%)	3% (1%)	3% (0%)	5% (0%)	0% (0%)
回答なし	2 (1)	1% (0%)	1% (0%)	1% (0%)	0% (4%)	0% (0%)	0% (0%)

Q4 ここ4～5年、あなたの住む地域の安心度として最も近いものを1つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
非常に安心になった	14 (4)	4% (1%)	8% (2%)	1% (2%)	3% (0%)	2% (0%)	0% (0%)
やや安心になった	53 (36)	15% (13%)	14% (11%)	17% (14%)	13% (15%)	15% (19%)	17% (10%)
以前と変わらない	216 (181)	63% (67%)	59% (66%)	66% (67%)	63% (74%)	66% (65%)	65% (60%)
やや物騒になった	39 (45)	11% (17%)	13% (17%)	10% (14%)	7% (11%)	7% (16%)	17% (30%)
非常に物騒になった	0 (1)	0% (0%)	0% (1%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
わからない	6 (3)	2% (1%)	1% (1%)	2% (2%)	3% (0%)	5% (0%)	0% (0%)
回答なし	16 (2)	5% (1%)	5% (2%)	3% (0%)	10% (0%)	5% (0%)	0% (0%)

Q5 ここ4～5年、あなたの 住む地域の活気として最も近 いものを1つ選んで□に印を してください。	合計 (人)	%					
		全体	佐 川	斗 賀 野	尾 川	黒 岩	加 茂
かなり活気がでてきた	15 (7)	4% (3%)	1% (2%)	8% (4%)	3% (4%)	5% (0%)	9% (5%)
やや活気がでてきた	94 (43)	27% (16%)	21% (10%)	28% (15%)	27% (30%)	46% (26%)	30% (15%)
以前と変わらない	101 (85)	29% (31%)	35% (28%)	29% (35%)	30% (22%)	17% (32%)	22% (45%)
やや活気が無くなってきた	83 (111)	24% (41%)	24% (45%)	26% (38%)	27% (44%)	15% (35%)	30% (35%)
かなり活気が無くなってきた	31 (24)	9% (9%)	14% (15%)	5% (7%)	0% (0%)	10% (6%)	9% (0%)
わからない	3 (1)	1% (0%)	1% (0%)	1% (1%)	3% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
回答なし	17 (1)	5% (0%)	5% (1%)	3% (0%)	10% (0%)	7% (0%)	0% (0%)

Q6 ここ4～5年、あなたの 住む地域で痴漢やひったくり、 空き巣が入ったなどの被害が ありますか？ひとつ選んで□ に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐 川	斗 賀 野	尾 川	黒 岩	加 茂
ある	43 (56)	13% (21%)	8% (22%)	13% (22%)	10% (4%)	22% (23%)	22% (25%)
ない	220 (174)	64% (64%)	71% (59%)	61% (62%)	73% (93%)	41% (65%)	65% (60%)
わからない	64 (42)	19% (15%)	15% (19%)	23% (15%)	7% (4%)	32% (13%)	13% (15%)
回答なし	17 (0)	5% (0%)	6% (0%)	3% (0%)	10% (0%)	5% (0%)	0% (0%)

Q7 ここ4～5年、あなたの 住む地域のご近所づきあいについて、 最も近いものを1つ選んで□に印をつけてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐 川	斗 賀 野	尾 川	黒 岩	加 茂
かなり増えてきた。	14 (2)	4% (1%)	5% (1%)	3% (0%)	7% (4%)	0% (0%)	4% (0%)
やや増えてきた。	72 (46)	21% (17%)	19% (15%)	24% (20%)	13% (15%)	20% (19%)	26% (15%)
以前と変わらない。	159 (147)	46% (54%)	47% (57%)	46% (54%)	50% (52%)	41% (42%)	43% (60%)
やや減ってきた。	60 (62)	17% (23%)	18% (22%)	15% (21%)	10% (30%)	29% (23%)	17% (25%)
かなり減ってきた。	19 (14)	6% (5%)	4% (6%)	5% (4%)	10% (0%)	5% (16%)	9% (0%)
わからない。	2 (1)	1% (0%)	1% (0%)	1% (1%)	0% (0%)	0% (0%)	0% (0%)
回答なし	18 (0)	5% (0%)	5% (0%)	5% (0%)	10% (0%)	5% (0%)	0% (0%)

資料編

Q 8 あなたの地域の住民の方の地域への関心度合いとして、最も近いものをひとつ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
とても関心が高い	14 (13)	4% (5%)	4% (4%)	6% (5%)	0% (7%)	2% (6%)	4% (5%)
やや関心がある	169 (128)	49% (47%)	45% (40%)	50% (53%)	63% (48%)	51% (52%)	48% (50%)
あまり関心がない	128 (115)	37% (42%)	40% (51%)	35% (32%)	27% (41%)	37% (39%)	48% (45%)
非常に関心がない	3 (5)	1% (2%)	1% (2%)	1% (2%)	0% (0%)	0% (3%)	0% (0%)
わからない	12 (10)	3% (4%)	3% (2%)	5% (8%)	0% (4%)	5% (0%)	0% (0%)
回答なし	18 (1)	5% (0%)	7% (1%)	3% (0%)	10% (0%)	5% (0%)	0% (0%)

Q 9 あなたの地域で行事が行われるときの住民の参加状況について最も近いものをひとつ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
積極的に参加する	23 (22)	7% (8%)	7% (4%)	7% (14%)	3% (15%)	7% (3%)	4% (5%)
どちらかという積極的に参加する	150 (114)	44% (42%)	38% (39%)	46% (40%)	57% (48%)	49% (48%)	39% (45%)
あまり積極的に参加しない	152 (127)	44% (47%)	50% (52%)	40% (42%)	33% (33%)	37% (48%)	57% (50%)
全然参加が望めない	4 (5)	1% (2%)	0% (2%)	3% (2%)	0% (4%)	0% (0%)	0% (0%)
わからない	8 (3)	2% (1%)	2% (2%)	2% (1%)	0% (0%)	7% (0%)	0% (0%)
回答なし	7 (1)	2% (0%)	2% (1%)	2% (0%)	7% (0%)	0% (0%)	0% (0%)

資料編

Q10 あなたの地域に住んでいる人は、お互いに助け合って生活していると思いますか。最も近いものを一つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
日ごろから助け合っている	93 (67)	27% (25%)	25% (24%)	29% (25%)	23% (26%)	37% (32%)	17% (15%)
時には助け合っている	193 (158)	56% (58%)	55% (57%)	52% (61%)	73% (63%)	56% (45%)	61% (65%)
あまり助け合いはない	39 (41)	11% (15%)	16% (17%)	10% (11%)	0% (11%)	5% (23%)	17% (20%)
まったく助け合いはない	5 (1)	1% (0%)	1% (0%)	3% (1%)	0% (0%)	0% (0%)	4% (0%)
わからない	8 (4)	2% (1%)	1% (2%)	4% (2%)	0% (0%)	2% (0%)	0% (0%)
回答なし	6 (1)	2% (0%)	2% (1%)	2% (0%)	3% (0%)	0% (0%)	0% (0%)

Q11 あなたの地域のボランティア活動への関心度について、最も近いものを一つ選んで□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
関心度は高く積極的に参加する	27 (18)	8% (7%)	5% (6%)	11% (8%)	3% (11%)	12% (6%)	4% (0%)
まずまず関心があり、条件がそろえば参加する	131 (106)	38% (39%)	37% (30%)	35% (40%)	33% (56%)	44% (52%)	57% (40%)
関心はほどほどで、誘われたら参加する	135 (104)	39% (38%)	42% (41%)	39% (40%)	50% (19%)	29% (35%)	26% (45%)
あまり関心が無く、誘われても参加が望めない	35 (32)	10% (12%)	12% (17%)	8% (8%)	10% (7%)	12% (6%)	9% (15%)
わからない	11 (9)	3% (3%)	2% (6%)	5% (2%)	0% (4%)	2% (0%)	4% (0%)
回答なし	5 (3)	1% (1%)	1% (1%)	2% (1%)	3% (4%)	0% (0%)	0% (0%)

※Q12について、()は第2次計画次の数値。

第2次計画においては、項目ごとの選択者数÷回答者実数で算出している。

今回は、項目毎の選択者数÷選択総数で算出。

Q12 お住まいの地域で住民同士の信頼感や助け合い意識を高めるためには、どのようなきっかけがあれば効果的だと思いますか。大切だと思うものを3つまで選び□に印をしてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
自治会単位などのお祭りなど親睦の機会をつくる。	③152 (③127)	③16% (③47%)	13% (③49%)	②16% (③51%)	①27% (②59%)	②21% (③35%)	③15% (25%)
趣味を通じたサークル活動を増やす。	68 (41)	7% (15%)	8% (15%)	6% (11%)	6% (22%)	7% (23%)	10% (15%)
運動会などのイベントを行う。	59 (57)	6% (21%)	2% (10%)	8% (27%)	1% (4%)	13% (③35%)	②16% (②60%)
地域の公園や道路の管理を共同で行う。	110 (83)	12% (31%)	11% (30%)	③14% (32%)	③19% (41%)	6% (29%)	11% (20%)
防災など地域の問題解決に向けて一緒に取り組む。	②176 (②139)	②19% (②52%)	②18% (②52%)	①26% (②54%)	9% (③52%)	③14% (②42%)	11% (③55%)
身近なテーマについて学べる講習会等を行う。	38 (24)	4% (9%)	3% (8%)	5% (11%)	3% (11%)	4% (10%)	7% (0%)
地域の高齢者や子どもの見守りを一緒に行う。	110 (81)	12% (30%)	③14% (30%)	13% (33%)	10% (26%)	7% (26%)	7% (30%)
普段からあいさつや声かけを行う。	①191 (①182)	①21% (①68%)	①29% (①71%)	8% (①65%)	②23% (①74%)	①27% (①65%)	①21% (①60%)
わからない。	14 (7)	2% (3%)	1% (4%)	3% (4%)	0% (0%)	1% (0%)	2% (0%)
回答なし	6	1%	1%	1%	1%	1%	1%

※Q13：該当する役職を問う設問であるが、今回から重複回答としたため、前回と比較できないので算出しない。また、役職継続年数は、役職が重複しているため集計は行わない。

Q14 あなたの年齢と性別を教えてください。年齢は数字を入れてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
男	156 (157)	45% (58%)	46% (59%)	39% (56%)	57% (59%)	41% (48%)	65% (70%)
女	163 (109)	47% (40%)	47% (39%)	53% (42%)	27% (33%)	56% (52%)	30% (30%)
回答なし	25 (6)	7% (2%)	7% (3%)	8% (1%)	17% (7%)	2% (0%)	4% (0%)

※Q15（職業）：集計省略

※Q16について、()は第2次計画次の数値。

第2次計画においては、項目ごとの選択者数÷回答者実数で算出している。

今回は、項目毎の選択者数÷選択総数で算出。

Q16 あなたのお住まいの地域では、地域として取り組むべき課題として、どのようなことがありますか。 <u>大切だと思うものを4つまで選び□に印をつけてください。</u>	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
地域の防犯、治安、交通安全の向上	③125 (92)	12% (34%)	②14% (40%)	11% (36%)	6% (19%)	10% (19%)	12% (30%)
自主防災組織活動（防災・防火、災害時の対応）	①168 (①162)	①16% (①60%)	①18% (①60%)	②14% (①58%)	②17% (②52%)	②13% (①65%)	②14% (①70%)
高齢者・しょうがい者への支援（居場所づくり・買い物支援など）	④140 (③109)	③13% (③40%)	③11% (35%)	③12% (36%)	②17% (③48%)	②13% (③48%)	①19% (②60%)
介護予防・健康づくり	99 (71)	9% (26%)	10% (30%)	8% (31%)	6% (19%)	8% (10%)	③13% (20%)
地域コミュニティーづくり（住民同士の絆づくり）	②147 (②129)	②14% (②47%)	②14% (②54%)	①15% (②45%)	11% (37%)	12% (39%)	10% (③50%)
自治会組織の活性化	71 (③109)	7% (③40%)	8% (③46%)	7% (36%)	3% (33%)	4% (29%)	5% (③50%)
子育ての支援、青少年の健全育成	58 (41)	5% (15%)	5% (13%)	7% (16%)	4% (15%)	4% (19%)	5% (15%)
人口減少対策（若者定住・結婚の機会づくり等）	⑤114 (⑤100)	11% (37%)	8% (22%)	11% (③41%)	①19% (①74%)	①14% (②52%)	6% (25%)
地域の伝統芸能・祭りの継承や保存	35 (38)	3% (14%)	2% (14%)	4% (12%)	4% (15%)	6% (26%)	0% (5%)
地域の特産や産業振興等の地域おこし	52 (32)	5% (12%)	1% (6%)	6% (13%)	9% (15%)	9% (26%)	5% (15%)
ごみの減量、資源化、緑地保全・地域美化等の環境活動	43 (54)	4% (20%)	4% (14%)	5% (27%)	2% (26%)	3% (13%)	3% (25%)
スポーツ・文化活動の活性化	18 (13)	2% (5%)	2% (6%)	1% (4%)	1% (7%)	1% (3%)	5% (5%)
その他	6 (3)	1% (1%)	0% (1%)	1% (0%)	0% (4%)	1% (3%)	0% (0%)
特に問題や課題はない	7 (7)	1% (3%)	1% (4%)	1% (4%)	0% (0%)	0% (0%)	1% (0%)

※Q17について、()は第2次計画次の数値。

第2次計画においては、項目ごとの選択者数÷回答者実数で算出している。

今回は、項目毎の選択者数÷選択総数で算出。

Q17 地域でのあなたの立場（役職）で課題に感じることは何ですか。下記で該当するものすべてに印をつけてください。（複数回答可）	合計（人）	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
仕事等で忙しく役割を十分果たせない。	⑤87 (84)	8% (31%)	7% (29%)	8% (37%)	9% (30%)	③11% (29%)	①14% (25%)
後継者がいない。	③117 (④95)	③11% (35%)	11% (29%)	③11% (③39%)	15% (②37%)	10% (39%)	②13% (①45%)
書類作成などが煩雑。	32 (15)	3% (6%)	3% (3%)	3% (6%)	1% (0%)	5% (19%)	4% (5%)
地域を知らない。	34 (26)	3% (10%)	3% (11%)	4% (10%)	1% (4%)	2% (0%)	6% (25%)
困ったときの相談先がない。	13 (10)	1% (4%)	2% (6%)	1% (4%)	0% (0%)	1% (3%)	0% (0%)
高齢化が進んで、活動が停滞している。	②134 (①151)	①13% (①56%)	①14% (①61%)	②12% (①50%)	①13% (①70%)	①14% (①55%)	11% (②40%)
自治会に入らない人が増えている。	58 (52)	6% (19%)	6% (26%)	6% (18%)	3% (4%)	8% (19%)	3% (10%)
地域に関心のない人が増えている。	④109 (③106)	③11% (③39%)	③12% (③51%)	10% (30%)	①13% (26%)	9% (②45%)	7% (20%)
地域のつながりが弱くなっている。	①135 (②123)	①13% (②46%)	②13% (②53%)	①13% (②44%)	③11% (②37%)	②13% (③35%)	②13% (②40%)
話し合う機会がない。	58 (56)	6% (21%)	5% (24%)	6% (21%)	5% (11%)	5% (13%)	6% (30%)
地域の助け合いが少なくなっている。	85 (71)	8% (26%)	8% (29%)	9% (22%)	10% (26%)	7% (32%)	6% (20%)
取り組みを行うための予算が不足している。	40 (34)	4% (13%)	2% (11%)	5% (13%)	5% (4%)	4% (23%)	6% (15%)
個人情報保護が活動の障壁になる。	69 (⑤85)	7% (32%)	7% (32%)	6% (37%)	8% (30%)	7% (23%)	7% (25%)
地域で人が集まる施設がない、または十分ではない。	32 (24)	3% (9%)	5% (9%)	2% (7%)	4% (4%)	2% (23%)	0% (0%)
活動を周知する方法がない。	8 (7)	1% (3%)	1% (2%)	1% (2%)	0% (7%)	2% (0%)	0% (5%)
その他	23	2%	0%	4%	4%	3%	4%

※Q18について、()は第2次計画次の数値。

第2次計画においては、項目ごとの選択者数÷回答者実数で算出している。

今回は、項目毎の選択者数÷選択総数で算出。

Q18 あなたの役職上感じる、地域の課題を克服するために必要があると思うことは何ですか。下記の中から <u>太切だと思ふものを3つまで</u> 選び□に印をつけてください。	合計 (人)	%					
		全体	佐川	斗賀野	尾川	黒岩	加茂
後継者の育成。	②127 (②109)	②16% (②41%)	①17% (③37%)	②16% (②44%)	③14% (30%)	②13% (①48%)	①19% (①50%)
若者の転入・定住。	76 (72)	9% (27%)	6% (22%)	10% (20%)	②18% (①63%)	③12% (②32%)	11% (25%)
高齢になっても元気で活動できる健康づくり・介護予防の取り組み。	①144 (①124)	①18% (①46%)	①17% (①48%)	①19% (①49%)	①21% (②56%)	①18% (②32%)	②15% (②35%)
地域の活動に予算をつける。	43 (40)	5% (15%)	6% (10%)	4% (17%)	8% (7%)	5% (26%)	6% (25%)
自治会組織への加入の徹底。	47 (34)	6% (13%)	7% (18%)	6% (11%)	1% (0%)	8% (10%)	0% (10%)
子どもの頃から地域に愛着や誇りを持てるような取り組み。	84 (69)	10% (26%)	9% (26%)	③12% (26%)	10% (22%)	12% (29%)	②15% (25%)
住民同士の仲がよくなる活動・取り組み。	③107 (③98)	③13% (③36%)	①17% (②39%)	11% (③40%)	11% (③37%)	10% (16%)	11% (②35%)
世代間交流の取り組み。	67 (52)	8% (19%)	7% (21%)	11% (20%)	7% (15%)	7% (16%)	8% (20%)
行政と地域の人的物的連携・協働。	53 (57)	7% (21%)	6% (25%)	6% (22%)	8% (15%)	7% (13%)	9% (20%)
人が集まりやすい集会所などの整備。	31 (34)	4% (13%)	6% (11%)	3% (12%)	0% (11%)	5% (26%)	2% (5%)
地域お世話役さんの事務や活動を支援してくれるセンター設置、または、センターの機能の充実。	25 (28)	3% (10%)	2% (9%)	4% (15%)	1% (0%)	5% (13%)	4% (10%)

佐川地区の方からのご意見

- ◆高齢者の健康年齢に格差があり個々の交流の対応には細心の注意が必要と思われる。扱って高齢者の日常健康維持はサークル活動に参加することが必要である事PRしてください。広報を通じてそれに対して集会所の備品、設備が古く現況で使用するには大変で高齢者と協同するには工夫いる。地域のコミュニティセンターにするには計画的に目標をつくり投資がいきます。国から介護予算の削減するために介護施設に在宅介護するよう奨励する対策みられる。認知症対応 感動-興味-工夫-計画-行動 (佐川地区80歳代男性)
- ◆駆け込み寺的な雰囲気、心配事や介護の悩み、子育ての悩み、家族間の悩み等々、気軽に足を運んでゆっくり相談できる敷居の低いプライバシー保護も考慮される相談室を備えたカフェ的な場所（特に高齢者の方が）足の向かいやすい場所があることが望ましい。(佐川地区80歳代女性)
- ◆若者が少なく地域を支える次世代の担い手不足に不安をかんじます。(佐川地区60歳代女性)
- ◆とにかく高齢になっても障害があっても安心して暮らし、生き生きと暮らせる佐川町であって欲しい。行政、社協、地域が一体となって協力し合う事が大切ですね。(佐川地区60歳代女性)
- ◆私達の地域は、昔から地域に生活している人と、団地・町営住宅やアパートなどに住んでいる人と混じっています。車社会になり、朝夕の挨拶もなく、顔を見たり、声をかけ合う事もほとんどありません。だんだん高齢になりお隣さんに何かあれば助けていただかないと・・・わかっていますが声をかけることがなかなかなくて・・・これではいけないとわかっていますが、声をかけることがなかなかなくて・・・これではいけないと思いながら過ぎていきます(自分の目標：地域の催しや集まりになるだけ顔を出すことをこころがける)。上記(Q18)の事、私達にできることからご指導ください。よろしくお願いします。(佐川地区80歳代女性)
- ◆高北病院前の春日川の川沿いより西佐川の散歩道、結構利用する人がいるが夜散歩の時には懐中電灯が必要なので、学校帰りの自転車の学生も多く、外灯を安全対策として設置してより快適な散歩道にして欲しい。(佐川地区)
- ◆町営住宅では犬・ネコを飼わないと決まり事があるのにきちんと役場が言っていない為苦勞をしています。いろんな取り組みを考えているが守ってもらえないのが残念。防災の県の話し合いも50世帯中集まってくれる人は10人位です。一生懸命地域の為に願っています。(佐川地区70歳代女性)
- ◆個々の自己主張が強く、まとまることはない。(佐川地区70歳代女性)
- ◆集合住宅等に入居している者が自治会に入る様な指導をしてもらいたい。又、自治会に入会した場合のメリットを作ってもらいたい。(佐川地区70歳代男性)
- ◆行政、社協共に良く活動していると思う。(佐川地区70歳代男性)
- ◆課題が見えてくるほど活動ができていません。(佐川地区60歳代女性)
- ◆この地域は佐川町よりも他からの移住者が多く佐川町愛はちょっと足りないかもしれません。住めば都、確かにそうあるべきなのですが寄る年波でしょうか、私も生まれ故郷への思いがいつの間にか少しずつふくらんで行くのを感じます。自治会も高齢化で次世代にバトンタッチできるかどうか・・・。まさしく個の時代、自分にとって心地良い人とだけつながってそうでない他者には決して近づきません。長生きしてますます依怙地になっても佐川愛がなくなっても分け隔てなく援助して下さる行政に感謝です。(佐川地区60歳代女性)

- ◆まだ越してきて日が浅くわかりません。（佐川地区30歳代男性）
- ◆高齢化が進み体力やその他に自信がなく意欲がなく家より外出したがない人が増えた。
（佐川地区80歳代男性）
- ◆協力者、サポート役、ボランティアするもされるも高齢者で後に引き継いでくれる若い世代が少なく、何時される側になってもおかしくない状態で明日は我が身と不安。機会ある毎に、又、この様な調査がある度に意見を述べさせて頂いていますが、環境としては地震・津波等の心配も少なく、他町村から移住してくる人が増えて、住み良い所だとは思いますが、少子高齢化が進むに連れ後継者不足でシャッター街が増え、眠れる町になった様で活気が感じられません。特徴を活かす良戦もなく色々研究アイデアは出し合っている様ですが、なかなか目に見える迄には感じられません。但し小部落毎には地域の人達が丸となって活気ある良戦アイデアで頑張っている様子が伺われます。経済的な支えがあってIターンUターン出来る条件を整えて若い世代を呼び込む母体、中心地になる佐川町になって欲しいです。安心して老後を暮らせる町、施設や病院に行けない人達が家庭で終末を迎えられるサポートの強化等も必要では？老いても精神的経済的にも健康で自立できる生きがいのある毎日を望んでいます。（佐川地区70歳代女性）
- ◆個々の住民が自治会にもっと関心を持つためにはどのような努力があればよいだろうか。儀式ばった総会でなく役員が住民に呼びかけなど意見を素直に聞くことが大事なことだと思うし、考えを考慮せずに述べれる雰囲気があればと思います。（佐川地区80歳代女性）
- ◆子育ての応援できる組織づくりについて考えたい。子どもが安心・安全に成長できるように。子どもは宝である。（佐川地区70歳代男性）
- ◆民生委員さんより地域の方々の情報が欲しいということで、身近な方々（地区の会計係をしているので、その範囲内で顔見知りの方）の知り得る情報は民生委員さんにお伝えする程度のことしかできていません。顔を見る機会も少ない高齢者の方々（70歳以上）がほとんどなので、総会（年1度）にも出席されない方も数人おられ、仕事に出ている関係で訪問することもようせず、名ばかりの福祉委員で申し訳ありません。（佐川地区70歳代女性）
- ◆1. 地域で役割を果たしてきた年齢層の高齢化。次世代層の地域活動参画意識がもう一つもの足りない。現役層への行政のアプローチも必要。自治会役員のなり手がいない。消極的。2. 空地（含田畑）空屋の管理。所有者への働きかけ必要かも。（佐川地区80歳代男性）
- ◆自治会については、新しく住宅ができる等、世帯数は増加しております。ただ、地域の和となると仲間意識が乏しく、何かを共同で行うことを嫌う方が多く感じられます。佐川地区独特なものなのかわかりませんが、共調しあう心が足りないように思われます。この雰囲気というか、気質と言いますか改善するのは容易ではないように感じる今日この頃です。昨今は、個人主義がまかり通り、自治会、班等に入らない人が多くいるとの話も聞きます。教育が悪いのか、共調する人間性が数十年前より低下していると感じています。地域を活性化するのは共調しながら事を進めるべきであると思います。
（佐川地区60歳代男性）
- ◆集会所が高齢者にとって遠いし狭い。緊急時の場合利用しづらいとの声が上がっています。地域の現状をみて新たに設置して欲しいという意見があります。（佐川地区70歳代女性）
- ◆・伊野バイパスの早期完成（市内から40分の通勤圏域確保） ・牧野公園の整備
・佐川の良い点PR 産業振興の地域おこし （佐川地区70歳代男性）

- ◆近所は老人が多くお隣は空き屋ばかりで、病人が多くて外を歩く人も少ない。
(佐川地区80歳代女性)
- ◆民生委員や自主防災組織代表者と行政の温度差が大きい。できない理由を説明するのではなく、どうしたら一步でも前進するか考え対応してもらいたい。(佐川地区70歳代男性)
- ◆昔からの神事(氏神様、金比羅様)には三集落が協力して掃除・お祭りをするのですが、現役の方は忙しいこともあり若い方達の参加が難しいです。(佐川地区70歳代女性)
- ◆若者夫婦に空住宅等を使って強力で支援。税金を若者に使う。小さな自治会より佐川町全体が大事。税金を子育てする人を支援するように使う。夫婦(離婚した場合は子育て当事者、男女どちらでも老人でも)に対して大学卒業まで町が援助する(5万~8万円/月)。結婚して佐川町に住む200万円、佐川町で子どもを産む(1人200万円)。出産費用も全て佐川町が出す。(佐川地区70歳代男性)
- ◆佐川町は観光物産施設(道の駅など)がないので、その面で活気がないように思う。酒蔵や牧野公園など観光の目玉は他市町村より恵まれているので、町外から来た人に対しても、物産の魅力がでる様な施設があれば活気づくのではないかと。(佐川地区50歳代男性)
- ◆用水路が解放しており転落、夜間等に危険を感じる(水路も深く流れも早い)。(佐川地区)
- ◆町行政組織と町民との意識が必ずしもかみ合っておらず、ずれがある。(佐川地区70歳代男性)
- ◆我自治会は高齢者が多く将来は人が減り自治会が寂れるおそれがあります。Uターン、Iターン等若者が定住できる住みよい地域にしたい。(佐川地区70歳代男性)
- ◆高齢者または認知症の人が多く、空室も多く、将来はいろんな活動も難しくなると思います。5年後、10年後を考えると、人口もずいぶん減ります。(佐川地区)
- ◆ボランティア組織への行政・社協の支援がもう少し欲しいです。地域のつながりを強めるという言葉のみ先行しているように感じます。・社協や行政の職員さんが共に動いてくださると元気がでます。・町部でも高齢化のすすむところは時に寂しくなります。こどもが集まれる定例の集いがあるといいですが、~教室や塾など子ども達も忙しいので若い世代、子ども達と接する機会、どのように献立したらいいものかと思えます。(佐川地区70歳代女性)
- ◆高齢者が増え若者がいないので、老々で頑張っています。役を受けると責任を感じます。役なしでも行ける時は声をかけてもらえれば参加します。(佐川地区70歳代女性)
- ◆西佐川駅の利用が多いですが、階段ばしごがとてもふたんになっています。姉が遊びに来たいけど車にも乗れないし駅の階段がのぼりきれないので又にするたびたび中止してきました。何とかとり除き、平坦で列車にのりおり出来るような駅にして欲しいと関係機関に働きかけてください。
(佐川地区80歳代女性)
- ◆年寄りばかりで心配です。若い人達は仕事であまり見かける事もなく、若い人達にも地域に関心を持ってもらいたいです。(佐川地区80歳代女性)
- ◆施設の場所日当たり悪い(1日中)。(佐川地区70歳代女性)
- ◆高齢化を防ぐことはまず無理と考えます。外に出る事が徐々に少なくなり、より不活性化することになります。楽しく過ごせる場所が近くにあることが大切ではないかと考えます。それは施設であったり、農業が出来る場や世代間交流などの出来る場であればよいと思っています。
(佐川地区60歳代男性)
- ◆空屋対策が大切。(佐川地区60歳代男性)

- ◆少子化でもあり、住んでいる地域の子どもも減ってきている。若者が住みたいと思えるような町づくりが必要。（佐川地区60歳代男性）
- ◆民生委員の活動が十分できていない。高齢の一人暮らしの方への訪問がない。名前だけの民生委員？人選に問題があるように思う。地域と密着できる活動を望む。民生委員は、ボランティア意識を高める指導をしてはどうか？報酬が出ているから・・・それなりの活動をするのがあたり前ではないでしょうか？（佐川地区70歳代男性）
- ◆自治組織と自主防災組織の連携が全くない。イザという時の為、互いの連携が必要ではないか。ゴミ収集場が鳥やケモノに荒らされています。町役場に相談すると、自治組織で対応して欲しいと言われ、自治会長に相談するとゴミを捨てている範囲の地区で対応して欲しいと言われた。町からの要請で募金を行っているが、そういうお金で対応できないでしょうか？（佐川地区40歳代男性）
- ◆まだ若手の家庭や、他の町村からの住民となった人たちは一応自治会に入るが総会とかの行事に参加しない事が多い。社会福祉協議会へは最近よく訪問しています。職員さんの電話での応対ぶりは非常によいと思います。（佐川地区80歳代男性）
- ◆アンケートの中で断片的に答えてきましたが、本気で佐川町を住みやすくしようとしている方が少ないように思います。地域のリーダーになっている方の重複がひどく、リーダーとしてきめ細かい活動ができていないし、同じ人から各テーマの意見を聞くことが多くなっていると思います。リーダーの分散の必要性和、いろいろ個性のある人をリーダーにし、多様性のある意見収集が必要になってきていると思います。（佐川地区70歳代男性）
- ◆地域と行政が一つになる事で良い町づくりができると思う。（佐川地区80歳代女性）
- ◆地域に関心があり積極的に活動している人と関心のない人との温度差があり狭い地域の中でいつも同じ人達が活動しているような感じがする。関心のない人達に少しでも関心をもってもらえるような取組が自治会単位からでもできると少しでも地域の活性化につながるのではと思います。（佐川地区60歳代女性）

斗賀野地区の方からのご意見

- ◆西山サロンでは、他地域からの参加もあり、地元の参加者が少なくなっても賑わっている。サロンどうしの交流もたまにあっても良いのでは？サロンの運営もボランティアに支えられている面も多いので、ボランティアをしやすい方向や、その後継者の確保等心配は多いのではないのでしょうか。（斗賀野地区70歳代女性）
- ◆小中高生が役割を担い、日常的に地域で活躍できる取り組み。子ども扱いではなく、地域の一員であると感じながら育つこと。（斗賀野地区60歳代男性）
- ◆最近、地域に子どもが少なくなり、高齢化も進む一方で、いろんな活動に集まる人が限られてきている。だからこそ何か自分にでも出来る事をと少しでもと、行事や会合に参加しています。行政、社会福祉協議会の皆様に、大変ではありますが、しっかりと対策をお願い致します。（斗賀野地区70歳代女性）

- ◆耕作放棄地増で地域が荒れるのが不安。その様な環境の中でここで住みたいと考える子どもが育つのか心配。地域は皆で守るという考えが必要ではないか。その仕掛が必要と思う。
(斗賀野地区70歳代男性)
- ◆独居老人が増加傾向のため、スーパー等が近くなって、特に足・腰の弱った老人には住みにくくなっている。町がバスを遠隔地に試行的に走行しているが、現在のところ、回数が少なく利用しにくいようである。(買物だけでなく銀行、役所、病院等に行きにくい)若者が定着できる職場等がない。9月に集落活動センターができれば少しは良くなればと期待する。(斗賀野地区80歳代男性)
- ◆若者がどんどん活躍できる活気溢れる町にしたい。(斗賀野地区30歳代女性)
- ◆とても温かく、住むには良い環境だと思いながら生活してきました。集落活動センター等で始め、佐川町全体の福祉に力を入れて下さる様子が伝わってき、老後の不安も解消しつつあります。ただ、若い人の姿が日常的に見えないのが淋しいですね。自分達の時代と違って、働く時間帯が変化しているのもわかりますが、子ども達も含め、世代間がかかわれる機会が必要かなと思います。行政に対しては、町営住宅の促進を望みます。(斗賀野地区60歳代女性)
- ◆住民同士のつながり、大事なんだけどなかなかむつかしいね。(斗賀野地区60歳代男性)
- ◆連帯感がなく皆個々にとじこもっているように思う。部落会でも半分位しか出席がない。お宮様のことでも役をきめるには、おしつけぎみにきめなくてはならない。とにかく積極性が無い。活気の有る地域作りをしたいのですが私の頭では知恵がうかばない。(斗賀野地区70歳代男性)
- ◆自治会会議への参加者の不参加が多すぎる。自宅に居るのに声かけしても無視、居留守。ゴミ収集所に他地域の不法投棄があるため、住民意識も低下し、自分勝手な、世帯が増えている。町営住宅入居者が入院、長期不在で管理がされず近所苦情を、自治会長へ申し出あるが、役場対応は反応なし。
(斗賀野地区50歳代女性)
- ◆・福祉に必要なことは福祉サービスを整備するだけでなく地域の結びつきを深めるために助け合いや交流活動の出来る場をつくる事で特に老人が動きやすいように道路集合所等の整備をする事によりタクシー・デイサービス等の車が自宅の前までいけるような整備も必要。・子どもを通じての地域とのつながりが減少しているので子どもを通じた地域とのつながりを持ち日頃から近所付き合いをし家族同士の交流をして、地域の子どもの声を掛け地域のつながりを持つ活動が出来るような雰囲気づくりが必要。(斗賀野地区70歳代男性)
- ◆近所で高齢化が進んでいる事や独居老人が増えているのを痛感。十分な活動が出来ない事、又、世代の相違で話題があわない事等々防災1つとっても自分達はもう長くないのでと協力望めず、自主性にまかせるしかない状況のように思われる。(斗賀野地区60歳代女性)
- ◆穏やかな毎日が送れる地域であってほしいです。心身ともに健やかに成長してほしい子どもたち。地域の宝ですものね。人それぞれ一生懸命生きている。自分が大事。同じ事。他人も大事。ほんの少しのやさしさを他の人にも向けてほしいと思います。(斗賀野地区60歳代女性)
- ◆地域の高齢化が進み、親の介護などで活動できない人が増えている。一戸に一人の家が増えている。自治会に参加する人が少なくなると年金者が増えているので寄付などがむずかしくなる(外灯など)。
(斗賀野地区70歳代男性)

◆地域の課題として、毎年引き継ぎの際に、自治会長が決まらない。若い方はそれぞれ忙しい、高齢者は年がいつているなどで、以前の様に順番がきたら、引き受ける方がいなくなり困る。

(斗賀野地区70歳代男性)

◆車社会の中で、近所でもお互い声をかけあう事が少なくなり、近所でありながらも顔を知らなかったり、どこの子どもか、また、どこの大人かを知らない事が少なくありません。そこで、幼児から老人までいろんな年齢層の者が自由に参加でき楽しく過ごす事が出来る場所とか催し等を学校の代休等の日に計画しチラシ等で呼びかけてみたりしてもどうでしょう。(但し、土・日は、小中学生は野球、サッカー、ドッチボール等があり参加者は少ないと思います)また、いろんな催しをする時は、各地域のいろんな団体に呼びかけ、皆が一緒になってやってく事も地域の輪が広がってゆく事にもなりそうだと思います。(斗賀野地区70歳代女性)

◆地域の課題は人口減少、高齢化、農業の衰退等、それらに対応すべき様々な課題がある。・地域への想い素晴らしい地域だ。子ども達に残し継承してもらいたい。・将来の地域像 人口減少は止められないが、人が減っても皆で楽しく暮らしている地域であってほしい。・望まれる取り組み 行政、社協が良い方向で施策を講じている。集活センター、あったか等を核に地域が一体となって課題に取り組めば良い。まじめにおもしろく。(斗賀野地区70歳代男性)

◆自分の住む、地域、佐川に誇りを持ち、隣り近所、子ども、大人に関わらず、声を掛け合い、元気に楽しく暮せる町になると良い。豊かな自然とおいしい食べ物、安心して過ごせる住まいで笑って過ごせると良い。(斗賀野地区60歳代女性)

◆若者が少なく、70才代が中心で活動している事。(斗賀野地区80歳代女性)

◆いろいろな行事に若い人の参加(力)をどのように多くするか。(斗賀野地区80歳代男性)

◆高齢者が多く、世代間交流の取り組みがちよっと大変と思う。(斗賀野地区70歳代男性)

◆斗賀野地区では、集落活動センターが10月にはオープンします。私は集落支援員として地域の声を聞き、斗賀野らしい地域の結びつきがいつまでも維持できるようお手伝いをしたいと考えています。特に、地域の高齢化や独居老人の増加、認知症の方々の増加など結びつきが非常に弱くなりつつあります。あったかふれあいセンターを通して利用者には一定の効果がありますが、まだまだ十分ではないと思います。(斗賀野地区60歳代男性)

◆地域のつながりが高齢化に伴い非常に弱くなり、近所でも知らない人がたくさんいるような状況が不安である。(斗賀野地区40歳代男性)

◆近所同士、地域の人の顔と名前がわかって、元気な時は笑いあって活動でき、調子が良くない時は様子を心配して訪ねあう地域になってほしいです。先輩方の元気な姿、困っている姿を、子ども達や仕事の人にも見て、一緒に過ごしてもらって、自分の将来の姿として高齢であっても、病気をもっても、笑えるという可能性と助けがあればありがたいであろう点を感じてほしいです。行政にはいろいろ出来ることがあるはずですが、タイミング良く、適した係に相談するのは難しく、もっと行政、社会福祉協議会の事と人を知って、つなぐ力が必要と考えます。

(斗賀野地区40歳代女性)

◆・子育て中のお母さん(家庭)への支援体制。・私達が子育てした時代とあまり変わってないことに驚く。高齢者対策も大事だが、若い世代支援にもっと力を入れるべき。・高齢者はお互いが支え合う、補い合うしくみづくり。・人の役に立つ。デイサービスやサロン、あったかも、受身でなく、皆が参

加型の取組をしたらよいのでは。（今もやっていると思いますが）・将来的には斗賀野に地域コミュニティ形成型のグループホームを作れたら?それぞれができること、畑仕事や食事づくり、健康、文化活動などをしながら支えあってくらす。・耕作放棄地、ここ数年急速に水田の耕作に困る状況。個々の力ではどうしようもない。集団育成急がれる。地域福祉面からアプローチ?

（斗賀野地区70歳代女性）

尾川地区の方からのご意見

- ◆一人暮らしが多くなり大変です。自分はしっかりしていると思っても他人から見ればかなり認知がきていると思いますがそれは言えないとなると健康福祉センターですね。（尾川地区70歳代女性）
- ◆尾川の和の中に移住者は入りづらいようです。（尾川地区60歳代男性）
- ◆峯地区は限界集落になっていると思うが、なかなか他地区からの協力も見込めない。協力してやらなければならない場面もあると思う。他地区、行政が協力できる体制も必要だと思う。若者の転入、定住は強く希望する所であるが、地域に協力できない（地区の行事など）者ばかりだとなんの意味がない（町住宅なども）。来てもらう条件に、行事や作業に参加してくれる人に来てほしい。県外だけでなく尾川に住みたいという者ならば、町内外でもいいのではないのでしょうか。地域の者と交流できる者を希望します。尾川地区は上～下へ長い地区です。上地区の方たちは下地区の方たちと生活が違います。楽しみ方が違うのです。保育園、学校への地域の協力はよくしていると思うが、老人会が解散してしまったので、老若年者で組織を組んで活動できるようにすればもっと活気づくのではないか。（尾川地区活性化協議会＋老若年のパワーをいろんな分野で活躍できる方いっぱいいると思う）。（尾川地区60歳代女性）

黒岩地区の方からのご意見

- ◆高齢化が進み若者も地区外への定住者が多く地域（自治会活動が難しくなっている）、特に高齢者の車（足）がなくなると買い物、病院への送迎に困る者がでてきている。ぐるりんバスはよかった。今後は数を増やしてほしい。（黒岩地区60歳代女性）
- ◆集落毎の下水、雑排水処理施設の設置。柳瀬川の増水時の対策（水害）、河川の改修工事も急ぐ。（黒岩地区60歳代男性）
- ◆平日の会議や行事には、仕事があるために出席できず、大変申し訳なく思っています。高齢者の方はもちろん、現在生活している方々が楽しい!!この地区で良かったと感じるような取り組みを考えていきたいと思えます。それは、その地区独自のものであってもかまわないと考えます。（黒岩地区60歳代女性）
- ◆集落活動センターくろいわが落成し、子ども達にカレー、又、モーニングも始まり、月1回ですが、出かけて（皆さん誘いあって）元気な顔に会いたいと思ってます。スタートしたばかりですが、少し明るい気持ちになってきたと思ってます。サロンの皆さん（利用者）も大変たのしみにしております。（佐川地区70歳代女性）
- ◆自治会、地域の人間関係は良好だと思えます。（黒岩地区70歳代男性）

- ◆地域へ社協が足を運ぶ。（黒岩地区70歳代男性）
- ◆自治会単位で楽しみながら、大切なこと（防災）などを学ぶ会をしたい。講演か、役場からその自治会独自の地震であぶない所を知る勉強会とかで、あとはみんなで「飲み会」をする。黒岩地域では、片岡氏の詳しい専門的な歴史の講演会をききたい。「片岡氏の発掘」→高知大の学生と一緒に勉強会（研究）をしたい。（黒岩地区60歳代女性）
- ◆自然環境の保全/人と金（黒岩地区男性）
- ◆地域が少しずつまとまってはきているが、まだまだ課題が多いので、住人1人1人が意識を持ち、1つになるような取組が必要だと感じます。若者が働ける場所が必要だし、子ども達も活動しやすい場所をあたえてあげられるような、住みやすく、残りたいと思えるような居場所作りが必要だと思う。町外にでても、ふる里に帰りたいと思えるような地域にしたいと思う。（黒岩地区60歳代女性）
- ◆地域が高齢化と多くの身体的障害者がいるため災害が発生した場合、なす術が無い状況です。自主防災の訓練やサロンをやって欲しいと役場から要請されますが、そんな状態ではありません。もっと現実を知って取り組んで欲しいと思います。（黒岩地区70歳代男性）
- ◆若者や他地域からの移住者が定住（住める）家が少なすぎる。（黒岩地区40歳代男性）
- ◆児童数が減少している小学校について、年配者は地域から子どもの声がなくなるのはいかん、と総合に後ろ向きな考えが多いが、特に中学校は統合してほしい。ある程度の集団で過ごさせたい（高校進学を見据えて）。その分スクールバスなどを充実させて、部活動の送り迎えなど、保護者の負担を減らしてほしい。・黒岩地区に住みたいという声を聞くが家がない（空き家はあることにはある）。ただ、放置している（されている）家について対処して欲しい。・集落支援員や地域づくり団体はどうしても年齢層が高いので、これらに属していない子育て世代（20～40代）とギャップはあると思う。行政側はまんべんなく意見を汲み上げて欲しい。・集落活動センターがオープンして、これから地域が活発になっていきそうだが、その中心メンバーは60代が多い。10～20年後、その方々がリタイアした時に、次世代が維持していけるか心配（担い手不足）。（黒岩地区30歳代女性）

加茂地区の方からのご意見

- ◆集活センターも完成したので、これからの発展を願い、協力したいと思います。（加茂地区70歳代男性）
- ◆私達高齢者がやるべき事は、現在佐川町に住んでいる若い人が安全第一で住みやすい地域にしてやる事だと思い、下記の事に取り組んでいます。人口減少対策について、何をすべきかを下記のように感じています。以上2点について書かしていただきました。①現在最優先にやるべき事は、30年以内に70%の確立で発生する、明日発生してもおかしくないと言われている南海地震に対する「防災目的の事前対策」です。ある程度はしょうがないが、出来る対策はできるだけやっていると後悔する。熊本地震の被害の結果、農業が出来なくなった、転出者が発生したと言われている。佐川町は農業が盛んな地域であり、地震の被害結果によっては、農業が出来なくなり、人口減少が加速する可能性がある。あらゆる事前対策を加速して実施するべきである。『私の実施内容』・急傾斜地倒壊危険箇所・土石流危険濁流区域の改良を、佐川町役場産業建設課経由高知県中央西土木事務所越知事務所

に要望書及び18世帯の同意書を提出済み。・私の地区の町道全面補修要望書を、佐川町役場産業建設課に提出済み。・私の子ども家族の家の上部山に、自然災害で倒れてくると家にあたる木があり、地主と交渉して木を切り倒した。・私の家の前の山に、手入れをしていなくて自然災害で倒れてくると私の家に被害を及ぼす恐れがあり、地主に伐採等の方法で安全な状態にするように申し入れた。・私の家、両親の家は、補助金を利用しての耐震改修・家具の固定・火災報知機取り付け、以上は完了。私の家のみ、ガラス飛散シートを貼り付け、水・食料を7日分位常時保存している。※今後も地域を観察し、地震について学び、地震対策を実施していく事が大事。※耐震改修の実施が、地震から命を守る大事な事であるが、実施率が低いのが現状です。実施率を上げる方法として、地域愛を高める考えを広めて耐震改修率を上げた地域があると、新聞とかで読んだ事があります。②子どもを事件・事故から守る。『私の実施内容』・国道33号沿いの通学路の、車道、歩道間にガードレールを設置する要望書を、国土交通省 佐川国道維持出張所に提出し、H27・H28に1カ所ずつ設置していただき、H29年度も1カ所の設置を要望済み。今後も1年に1カ所ずつ設置を要望する予定。・加茂小学校近くの、六所橋長竹川沿い通学路にガードレールの設置を佐川町役場に要望し、H29年度中に設置すると回答をいただいている。・加茂地区の、横断歩道のラインが消えかかっている箇所が3箇所あり、警察署に補修の依頼をしている。※H30年度までに完成予定の街路灯のLED化は、今までより明るくなるので防犯効果がある。③美しい地域をめざす活動をする事が、子どものしつけになる。『私の実施内容』・私自身はむずかしい事は出来ないが、自分の出来る事をして地域に貢献する事と、子ども達にきれいにする事の大切さを知ってもらいたくて、地域の草刈りを実施している。(5S-整理・整頓・清掃・清潔・しつけを身につければ、生きていく上での基本なので、立派な大人になれる。)

④人口減少対策 ・グローリープロダクツ(株)様には、地域として協力出来ることは出来るだけ協力して発展していただき、雇用を増やしてもらおう。出来れば正社員の雇用を増やしてもらい、今から学校を卒業する若者が就職できれば、若者の県外流出が少なくなり、移住増加の可能性はある。・グローリープロダクツ(株)様のような優秀な企業に企業誘致できる環境作りと、企業誘致の専門家に教育を受け、営業活動をして企業誘致をする。(加茂地区70歳代男性)

◆若者人口増(加茂地区80歳代男性)

◆高知市内まで20kmと高知に近く、高知西バイパスが佐川まで延長されれば、市内まで30分で行けることになり高知がますます近くなります。加茂に町営住宅を建てれば、須崎や高知など、南海トラフ地震による津波の心配のあるところからの移住が十分考えられます。津波の心配のない立地の特性を大いに生かすべきです。そうすれば、加茂の人口も増え、大いに活気づくと思います。町執行部、町議会には、十分考えてほしいところです。加茂は必ず発展します。(加茂地区80歳代男性)

◆集落活動センター「加茂の里」が活性化するには?私自身家庭の事情で自由の出来る時間が少なく活動に参加、取組めない現状です。少しでも協力できる事があればしたいと思っています。

(加茂地区70歳代女性)

◆耕作放棄地の除草→地域が寂れてみえる。行政主導で行えないか?(加茂地区60歳代男性)

◆いつも色々とお世話になりありがとうございます。私の家の近所にも一人暮らしのお母さんが亡くなり、今は空き家となり入院中には空き巣に入られたとの事でした。今は近所に住むお嫁さんがネコにえさをやりに朝夕きています。又、息子も田んぼを作っているので時々家に来ているようです。空き家がふえ治安も悪くなり、近い将来は空き家もふえる事でしょう。昔のように大家族ではなくて子ど

も達は別居になり、それぞれの生活をしています。なるべく心配、迷惑をかけない様にとこれからも健康寿命を願いたいものです。（加茂地区60歳代女性）

- ◆地震についても津波の心配が無いので関心が薄いように感じます。事ある時に転倒防止等金具取付については話していますがいまいの反応です。（加茂地区70歳代男性）
- ◆地域と行政・社協がそれぞれ役割を分担し、それぞれの目的を達成する力を向上させるとともに、同じ目標を共有する情報交流の場を設定する。そのためには、行政力とくに個々の職員の意識づくりが重要で、地域への働きかけや支援・協力を仕事としてではなく地域住民の一人として取組んでいく必要がある。（加茂地区60歳代男性）
- ◆自治会はすべての町民一人ひとり＝その地域全体＝町（行政施策）を結ぶ動脈だと思います。Q13のような様々なルートで、様々な情報や動きがある一方、受ける側、発信するのは一人ひとり又は世帯です。自治会の目的や役割をもう一度検討し、地域をまとめるボランティア的な現状の動きではなく、全体との関わりを深めれば、住民と連携が強まり、施策や取り組みが効率化できるのではないかと思います。例では自主防災や集落活動センターなど（社会福祉のソフト部?）は、自治会の役目から一体的又は密接に関わっているのではないのでしょうか。（別のアンケートにあった困った時の相談先の多岐な事例などから）（加茂地区80歳代男性）
- ◆30、40、50代の積極参加が望ましい。行政、社協さんと地域連携がとれるシステムを…（加茂地区60歳代男性）
- ◆・子どもから高齢者、障がい者が住みやすい地域作り。・地域の産業、農業を中心とした就労の場や、生きがいやりがい作り。・自主防災やあったかふれあいセンターを中心とした地域の見守り体制作り。・地域交流の場作り。（加茂地区50歳代女性）
- ◆子ども達がいくつになっても自慢できる地域にしたい。そのためには自分にできることを急がず、しっかりとやっていくしかない。行政に少し助けてもらいながら・・・（加茂地区70歳代男性）

2. 改正社会福祉法（平成30年4月施行）

※関連条文のみを抜粋

* 下線部分は法改正に伴い追加された項目

(地域福祉の推進)

第4条 地域住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者（以下「地域住民等」という。）は、相互に協力し、福祉サービスを必要とする地域住民が地域社会を構成する一員として日常生活を営み、社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に参加する機会が確保されるように、地域福祉の推進に努めなければならない。

2 地域住民等は、地域福祉の推進に当たっては、福祉サービスを必要とする地域住民及びその世帯が抱える福祉、介護、介護予防（要介護状態若しくは要支援状態となることの予防又は要介護状態若しくは要支援状態の軽減若しくは悪化の防止をいう。）、保健医療、住まい、就労及び教育に関する課題、福祉サービスを必要とする地域住民の地域社会からの孤立その他の福祉サービスを必要とする地域住民が日常生活を営み、あらゆる分野の活動に参加する機会が確保される上での各般の課題（以下「地域生活課題」という。）を把握し、地域生活課題の解決に資する支援を行う関係機関（以下「支援関係機関」という。）との連携等によりその解決を図るよう特に留意するものとする。

(福祉サービスの提供の原則)

第5条 社会福祉を目的とする事業を経営する者は、その提供する多様な福祉サービスについて、利用者の意向を十分に尊重し、地域福祉の推進に係る取組を行う他の地域住民等との連携を図り、かつ保健医療サービスその他の関連するサービスとの有機的な連携を図るよう創意工夫を行いつつ、これを総合的に提供することができるようにその事業の実施に努めなければならない。

(福祉サービスの提供体制の確保等に関する国及び地方公共団体の責務)

第6条（略）

2 国及び地方公共団体は、地域住民等が地域生活課題を把握し、支援関係機関との連携等によりその解決を図ることを促進する施策その他地域福祉の推進のために必要な各般の措置を講ずるよう努めなければならない。

(包括的な支援体制の整備)

第106条の3 市町村は、次に掲げる事業の実施その他の各般の措置を通じ、地域住民等及び支援関係機関による、地域福祉の推進のための相互の協力が円滑に行われ、地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制を整備するよう努めるものとする。

- (1) 地域福祉に関する活動への地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援、地域住民が相互に交流を図ることができる拠点の整備、地域住民等に対する研修の実施その他の地域住民等が地域福祉を推進するために必要な環境の整備に関する事業
- (2) 地域住民等が自ら他の地域住民が抱える地域生活課題に関する相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行い、必要に応じて、支援関係機関に対し、協力を求めることができる体制の整備に関する事業
- (3) 生活困窮者自立支援法第二条第二項に規定する生活困窮者自立相談支援事業を行う者その他の支援関係機関が、地域生活課題を解決するために、相互の有機的な連携の下、その解決に資する支援を一体的かつ計画的に行う隊員の整備に関する事業

2 厚生労働大臣は、前項各号に掲げる事業に関して、その適切かつ有効な実施を図るため必要な指針を公表するものとする。

(市町村地域福祉計画)

第107条 市町村は、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定するよう努めるものとする。

(1) 地域における高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項

(2) 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項

(3) 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項

(4) 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

(5) 前条第一項各号に掲げる事業を実施する場合には、同項各号に掲げる事業に関する事項

2 市町村は、市町村地域福祉計画を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、地域住民等の意見を反映させるよう努めるとともに、その内容を公表するよう努めるものとする。

3 市町村は、定期的に、その策定した市町村地域福祉計画について、調査、分析及び評価を行うよう努めるとともに、必要があると認めるときは、当該市町村地域福祉計画を変更するものとする。

(市町村社会福祉協議会及び地区社会福祉協議会)

第109条 市町村社会福祉協議会は、一又は同一都道府県内の2以上の市町村の区域内において次に掲げる事業を行うことにより地域福祉の推進を図ることを目的とする団体であって、その区域内における社会福祉を目的とする事業を経営する者及び社会福祉に関する活動を行う者が参加し、(中略)市及び町村にあってはその区域内における社会福祉事業又は更生保護事業を経営する者の過半数が参加するものとする。

(1) 社会福祉を目的とする事業の企画及び実施

(2) 社会福祉に関する活動への住民の参加のための援助

(3) 社会福祉を目的とする事業に関する調査、普及、宣伝、連絡、調整及び助成

(4) 前第3号に掲げる事業のほか、社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図るために必要な事業

3. 佐川町地域福祉アクションプラン策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 佐川町における地域福祉を総合的に推進することを目的として、社会福祉法（昭和26年法律第45号）に基づき佐川町地域福祉アクションプラン（以下「計画」という。）を策定するに当たり、地域住民、地域組織、関係団体等の意見を反映させるため、佐川町地域福祉アクションプラン策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、計画策定に関する事項について、調査審議し、その結果を町長に報告するものとする。

(組織)

第3条 委員会は、地域福祉に関係する者のうちから、町長が委嘱又は任命する委員30名以内をもって組織する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から当該年度の末日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に、委員長及び副委員長各1名を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し委員長に事故があるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、必要に応じ委員長が招集し、委員長が会議の議長を務める。

2 委員長が必要と認めるときは、委員会に所掌事項に係る関係者の出席を求めることができる。

(作業部会)

第7条 計画原案策定に至るまでの素案の立案及び調査検討を行うため、委員会の下部組織として作業部会を置くことができる。

(庶務体制)

第8条 委員会及び作業部会に係る庶務は、佐川町健康福祉課並びに佐川町社会福祉協議会の共管とする。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この告示は、公布の日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

4. 策定委員会・アドバイザー・事務局名簿

地域福祉アクションプラン策定委員会

	氏名	所属・役職等
1	岡添 豊彦	自治会長会会長 佐川
2	藤岡 數明	自治会長会会長 斗賀野
3	河添 周二	自治会長会会長 尾川
4	谷脇 正純	自治会長会会長 黒岩
5	片岡 幸雄	自治会長会会長 加茂
6	堀見 昇出	みんなで福祉のまちづくり委員会 委員長
7	田村 幸生	みんなで福祉のまちづくり委員会 佐川地区部会長
8	森 正彦	みんなで福祉のまちづくり委員会 斗賀野地区部会長
9	澤村 重隆	みんなで福祉のまちづくり委員会 尾川地区部会長
10	永田 滋	みんなで福祉のまちづくり委員会 黒岩地区部会長
11	坂本 貞雄	みんなで福祉のまちづくり委員会 加茂地区部会長 よさこいクラブ連合会会長
12	松岡 周平	佐川町身体障害者協議会副会長
13	藤田 千砂	佐川町手をつなぐ親の会会長
14	渡邊 須賀子	食生活改善推進協議会会長
15	尾碕 五十三	佐川町赤十字奉仕団委員長
16	野中 喜代子	J Aコスモスにこにこ会会長
17	岡村 統正	佐川町消防団長
18	西森 啓助	佐川町民生児童委員協議会会長
19	武政 早百合	佐川町保育協議会会長
20	渡邊 富子	わくわくクラブ会長
21	尾崎 國弘	介護保険運営協議会会長
22	吉永 永	さくら福祉事業所所長 佐川町地域自立支援協議会副会長
23	吉村 典宏	自主防災組織連絡協議会会長

(順不同)

アドバイザー

	氏名	所属・役職等
1	田中 きよむ	高知県立大学社会福祉学部 教授
2	川村 尚美	高知県中央西福祉保健所 次長
3	森田 南保	高知県中央西福祉保健所 地域支援室チーフ（地域支援担当）
4	鈴木 香	高知県社会福祉協議会 地域・生活支援課チーフ

事務局（社会福祉協議会・健康福祉課）

	氏名	所属・役職等
1	田村 佳久	社会福祉協議会 事務局長
2	田村 和裕	社会福祉協議会 あんしん生活支援センター長
3	土居 妃佐	社会福祉協議会 総務主任
4	麻田 皓美	社会福祉協議会 ボランティアコーディネーター
5	田村 里桜	社会福祉協議会 あんしん生活支援センター 地域福祉コーディネーター
6	田村 秀明	健康福祉課長
7	山中 秀男	健康福祉課長補佐
8	片岡 和子	健康福祉課長補佐
9	横畠 由起	健康福祉課 地域ふれあい係長
10	濱崎 和香	健康福祉課 介護保険係長
11	山本 壽史	健康福祉課 地域包括支援センター係長
12	川田 富佐	健康福祉課 生活応援係長
13	山根 邦仁	健康福祉課 地域サポート係長
14	田中 絵里子	健康福祉課 地域ふれあい係
15	津野 琴美	健康福祉課 地域ふれあい係
16	中岡 怜美	健康福祉課 地域包括支援センター係

5. 用語集

用語	説明
あったかふれあいセンター	子どもから高齢者、障害を問わず誰もが利用することができる小規模多機能型支援拠点。地域福祉の拠点として、集い、訪問、相談、つなぎ、生活支援等の機能を有する。
介護予防	要介護状態若しくは要支援状態となることの予防又は要介護状態若しくは要支援状態の軽減若しくは悪化の防止をいう。
協議体	市町村が主体となり、各地域におけるコーディネーターと生活支援・介護予防サービスの提供主体等が参画し、定期的な情報共有及び連携強化の場として、中核となるネットワーク。
権利擁護	権利擁護とは、自己の権利を表明することが困難な寝たきりの高齢者や、認知症の高齢者、障害者の人権擁護やニーズ表明を支援し代弁すること。近年は、認知高齢者の増加や、家族関係の希薄化などの社会背景を受け、成年後見制度や日常生活自立支援事業などの利用者が増加している。
災害時要配慮者	災害時に特に配慮が必要な方で、高齢者・障害者・乳幼児・妊産婦・傷病者・内部障害者・難病患者等を想定している。一般的な避難所では生活に支障が想定されるため、福祉避難所での受け入れなど何らかの特別な配慮をする必要がある。
災害ボランティアセンター	災害発生時のボランティア活動を効率よく推進するための組織。
集落活動センター	地域住民が主体となって、地域外からの人材も受け入れながら、旧小学校や集会所などを拠点に、それぞれの地域の課題やニーズに応じて、生活、福祉、産業、防災といった様々な活動に総合的に取り組む仕組み。
生活困窮者自立支援制度	生活困窮者自立支援法（平成 25 年法律第 105 号）に基づき、生活保護に至っていない生活困窮者に対する「第 2 のセーフティネット」を全国的に拡充し、包括的な支援体系を創設するもの。（1）生活困窮者の自立と尊厳の確保（2）生活困窮者支援を通じた地域づくりを目標としている。
生活支援コーディネーター （地域支え合い推進員）	高齢者の生活支援・介護予防サービスの体制整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネート機能（主に資源開発やネットワーク構築の機能）を果たす者。
成年後見制度	認知症、知的障害、精神障害などにより物事を判断する能力が十分でない方について、本人の権利を守る援助者（「成年後見人」等）を選ぶことで、本人を法的に支援する制度。

用語	説明
避難行動要支援者	<p>佐川町地域防災計画における定義</p> <p>災害時要配慮者のうち、在宅生活をしている方で、災害時に自力での避難に不安があり、地域で避難支援等関係者の支援を必要とする者であって、下記のいずれかに該当する方をいう。</p> <p>①身体障害者手帳第1種、総合級1～3級の交付を受けている方</p> <p>②療育手帳の交付を受けている方</p> <p>③精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方</p> <p>④75歳以上のみで構成される世帯の高齢者</p> <p>⑤介護保険法による要介護1～5までの認定を受けている方</p> <p>⑥障害者総合支援法の適用を受けている難病の方</p>
避難支援等関係者	<p>佐川町自主防災組織、佐川町消防団、佐川町民生児童委員、高吾北消防本部、佐川警察署、佐川町社会福祉協議会</p>
福祉避難所	<p>災害対策基本法による指定基準の一つとして以下のように規定されている。「要配慮者を滞在させることが想定されるものにあつては、要配慮者の円滑な利用の確保、要配慮者が相談し、又は助言その他の支援を受けることができる体制の整備その他の要配慮者の良好な生活環境の確保に資する事項について内閣府で定める基準に適合するものであること。」</p> <p>内閣府令で定める基準は、次の通り（災害対策基本法施行規則第1条の9）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者、乳幼児その他の特に配慮を要する者（以下この条において「要配慮者」という。）の円滑な利用を確保するための措置が講じられていること。 ・災害が発生した場合において要配慮者が相談し、又は助言その他の支援を受けることができる体制が整備されていること。 ・災害が発生した場合において主として要配慮者を滞在させるために必要な居室が可能な限り確保されること。

6. 第5次佐川町総合計画 45の施策

未来像：チームさかわ まじめに、おもしろく。

分野	施策
教育	施策1 佐川オリジナル教育による学力の向上
	施策2 地域資源に学ぶふるさと教育の推進
	施策3 地域ぐるみ教育の体制づくり
	施策4 スポーツ・文化活動を楽しむ社会教育の推進
	施策5 自然環境を大切にする意識の醸成
	施策6 魅力ある佐川高校づくりの支援
産業 と 仕事	施策7 農業振興と6次産業化の推進
	施策8 自伐型林業を核とした林業の推進による雇用づくり
	施策9 さかわ産木材を活用したものづくりの推進
	施策10 農業・商工業の後継者対策の推進
	施策11 スモールビジネス起業支援による商工振興
	施策12 さかわ産商品の開発・流通・販売体制の整備
	施策13 企業誘致による雇用づくり
結婚・出産 ・育児	施策14 出会い・恋愛・結婚の希望を叶える環境づくり
	施策15 安心して子どもを産める環境づくり
	施策16 地域ぐるみで子育てできる環境づくり
	施策17 子どもが安心して遊べる環境づくり
	施策18 子育て世代を支えるつながりの強化
	施策19 働きながら育てられる環境づくり
観光振興 と 情報発信	施策20 “植物の町”を打ち出す観光コンテンツの開発
	施策21 “文教の町”を伝える観光コンテンツの開発
	施策22 さかわブランドの確立と情報発信の強化
	施策23 観光エキスパート人材の育成
	施策24 観光協会・行政・町民が一体となった観光客受け入れ体制の整備
	施策25 情報発信と雇用・住環境整備を中心とした移住・定住促進
健康 と 福祉	施策26 予防医療サービスの充実
	施策27 健康診断受診の習慣化の促進
	施策28 地域ぐるみでの健康づくりの推進
	施策29 セカンドライフ充実のための生きがいづくり支援
	施策30 地域の力を引き出す地域包括ケアの体制整備
	施策31 障害児者福祉の推進

分野	施策
安全・安心	施策 3 2 南海トラフ地震に備えた町づくり
	施策 3 3 自主防災組織の活性化と防災となり組の促進
	施策 3 4 住民生活を支えるインフラ整備
	施策 3 5 安全・安心対策の強化
	施策 3 6 I Tを活用した安心生活情報の共有
	施策 3 7 地域の実情に即した公共交通の確立と維持
	施策 3 8 支えあい・助けあいネットワークの推進
	行財政
施策 4 0 コンプライアンスの徹底	
施策 4 1 開かれた組織づくり	
施策 4 2 将来を見据えた財政運営	
施策 4 3 役場と地域をつなぐ広報・広聴の強化	
施策 4 4 町づくりを担うファシリテーター人材づくり	
施策 4 5 未来へつながる人権尊重の推進	



第3次佐川町地域福祉アクションプラン

発行日：平成30年3月

発行者：佐川町健康福祉課

〒789-1202 高知県高岡郡佐川町乙 2310

TEL:0889-22-7716 FAX:0889-22-7721

社会福祉法人 佐川町社会福祉協議会

〒789-1202 高知県高岡郡佐川町乙 2310

TEL:0889-22-1510 FAX:0889-22-5621